

2020年2月3日

# みずほディーラーズアイ (2020年2月号)

みずほ銀行

## 目次

米ドル相場	2	韓国ウォン相場	9
ユーロ相場	4	台湾ドル相場	10
英ポンド相場	6	香港ドル相場	11
豪ドル相場	7	中国人民元相場	12
カナダドル相場	8	シンガポールドル相場	13
		タイバーツ相場	14
		マレーシアリング相場	15
		インドネシアルピア相場	16
		フィリピンペソ相場	17
		インドルピー相場	18

\* 見通しは各ディーラーのビューに基づきます。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

## 米ドル相場

予想レンジ: USD/JPY 108.00 ~ 110.50

市場営業部 為替営業第一チーム 田坂 満里衣

### ■ 先月の為替相場

1月のドル円は、地政学リスクの高まりに下落する局面がみられる一方で、2019年5月以来となる110円台も示現するなど、株価睨みの荒い値動きとなった。

3日、108円台半ばでオープンしたドル円は、イラン革命軍の司令官が空爆により殺害されたとのヘッドラインや、米12月ISM製造業景況指数が50を下回り、2009年6月以来の低水準を記録したことを受け、リスク回避の動きが強まり108円を割り込む水準まで急落。6日、イラン最高指導者ハメネイ師の報復措置への警戒感が高まる中、107円台後半まで下押し。7日、米12月ISM非製造業景況指数の堅調な結果を受け108円台後半まで反発するも、8日「米軍の駐留するイラク空軍基地へイランがミサイルを発射」との報道を受け、地政学リスクの高まりに月安値107.65円まで急落。その後、イラン高官の「戦争は求めている」との発言やトランプ米大統領の「軍事力を行使しない」との発言を受け、株式市場の反発と共に109.25円まで急伸すると、14日にかけて一気に上昇する展開。10日発表の米12月雇用統計の時間当たり賃金の好結果を確認し上昇に弾みがつくなか、14日米国による中国為替操作国認定解除報道をきっかけに、2019年5月以来となる110円台を突破し、110円台前半まで上昇。15日、米中第一段階通商合意を控え、ムニューシン米財務長官が中国製品への関税解除を否定したことから109円台後半に反落したが、米中第一段階通商合意調印を無事こなすと、16日の米12月小売売上高や米金融大手の好決算を好感し、17日には月高値110.30円まで上昇。しかし、21日にトランプ大統領が「欧州と貿易協定が締結されなければ、真剣に欧州自動車に関税を課すことを考えている」と発言したことや、新型コロナウイルス感染拡大懸念から株式市場下落を横目に109円台後半に下落。22日以降は新型コロナウイルス感染拡大が材料となり下値模索の展開。22日に中国政府が国をあげて新型コロナウイルス感染拡大を最小限にする方針を示したことから一時110円台を回復したが、世界的な景気鈍化が意識され株価下落を横目に、ドル円はじり安の展開が続き、27日に約2週間ぶりとなる108.73円を付けた。28日は株式市場にも売り一服感が出る中、109円台を回復し、29日はFOMCを無風で通過し、109円近辺での小動き展開に終始。

### ■ 今月の見通し

今月のドル円相場は底堅い展開を予想する。1月終盤以降、新型コロナウイルス感染拡大による世界景気鈍化が意識され、株価下落と共にドル円も108円台後半まで下落する展開となったが、筆者には、世界的にリスク回避地合が強まったというよりは、高値圏を推移する米株が調整局面を模索していた中で飛び込んできた格好の材料に反応しただけのように映る。前月上旬に29,000ドルを突破し、連日史上最高値を更新していたNYダウ平均は17日には29,348.10をつけた。米国祝日ははさんだ翌営業日となる21日にまさに新型コロナウイルスが材料視され始めた。その後、27日にかけてNYダウ平均は28,535.80とピーク時から3%近く下落したわけだが、これは更なる上昇に向けてのガス抜きといわんばかりの健全な動きではないだろうか。一方で、ドル円の下落幅は110.30円から108.73円と約1.5%弱。年始の米国イラン情勢悪化を巡る局面でもせいぜい107.65円までしか下落しておらず、むしろ1月はドル円の底堅さを認識させられる1か月となったといえよう。

米株にはまだ調整余地がありそうなおうえ、2月中旬頃にかけては米国債大型償還時期でもあるため、ドル円も108円近辺までの下落は見込んでおいた方がよいだろう。しかし、今月3日のアイオワ州党員集会を皮切りに米国大統領選に向けた予備選挙・党員集会が今後随時開催されていくことから、トランプ米大統領の再選を狙った動きも加速していくことが予想される。前月に米中第一段階通商合意署名を終えたトランプ大統領は、「欧州と貿易協定が締結されなければ、真剣に欧州自動車に関税を課すことを考えている」と発言するなど次なるターゲットとして欧州との通商協議に言及しているため、トランプ大統領特有の揺さぶりに株式市場・為替市場が下押しする局面もあり得ようが、堅調な米経済と米株価が再選に向けた生命線であるトランプ大統領が、この生命線を完全に断ち切る行為に及ぶことはなく、これらを利用しながら巧みに米株価上昇に持ち込みリスクオン地合を醸成し、NYダウ平均は再び史上最高値更新の展開となり、ドル円も110円台を回復する流れを予想する。なお、今月11日にはパウエルFRB議長による米下院での議会証言が予定おり、相場への影響は限定的と考えられるものの、今年の金融政策を見極めるうえでも内容には注目しておきたい。

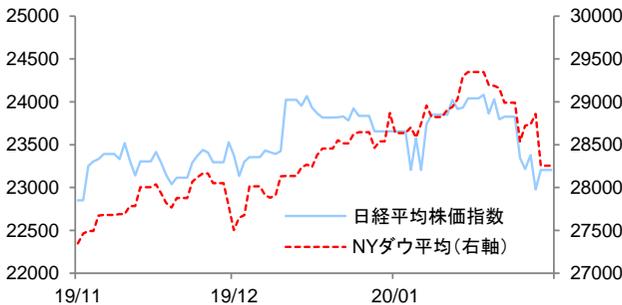
### ■ 為替の動き

(資料) ブルームバーグ



### ■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーグ



### ■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/4	ISM製造業景況指数	12月	49.0	47.2	48.1
1/8	ISM非製造業景況指数	12月	54.5	55.0	53.9
1/10	非農業部門雇用者数変化	12月	160k	145k	266k
1/10	失業率	12月	3.5%	3.5%	3.5%
1/10	平均時給(前年比)	12月	3.1%	2.9%	3.1%
1/16	小売売上高(前月比)	12月	0.3%	0.3%	0.3%
1/30	GDP確定値(前期比年率)	4Q	2.0%	2.1%	2.1%
1/30	FOMC政策金利		1.50%~1.75%	1.50%~1.75%	1.50%~1.75%

## カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

### ■ドル/円 見通しまとめ

ブル	12名	108.00 ～ 110.50	ベア	9名	107.50 ～ 110.50
----	-----	-----------------------	----	----	-----------------------

※ レンジは中心値

田中	ブル	108.00 ～ 110.50	突如として世界を席巻した新型コロナウイルス感染拡大懸念は、今後の展開が読めず状況を見守るしかない。当面、ドル円は上値重く推移も、感染の深刻化は回避され早期にピークを迎えることで、反発する展開を想定したい。
竹内	ベア	107.50 ～ 110.50	新型コロナウイルス関連のヘッドラインを材料としたリスクオフは徐々に一服すると思われる。一方、実体経済への悪影響はこれから顕現化する可能性。3月末に向けた配当金・BSシートヘッジ等円転ニーズもあり、実需面でも上値は重い。
筒井	ベア	105.50 ～ 111.00	大統領選民主党候補に注目。月初の州大会で左派候補がTop3に二人入れば株安円高へ。加えてFOMCでリフレ推進と1.5兆\$準備預金残高最低水準が明示された意味は大きく、金利市場は利下げを75bpは織り込み為替は円高に進む
加藤	ベア	107.00 ～ 111.00	新型コロナウイルスの世界経済に対する影響を判断するにはまだ早いものの米国大統領選挙を控えて市場はFRBに利下げを催促する動きになりやすい。すぐにはないが徐々に円高圧力が復活すると考える。
関	ベア	108.00 ～ 109.50	ウイルス感染拡大の報にもドル円は落ちきらず、買いフローの強さを確認するものとなったが、リスクオフの後退は時期尚早。輸出筋も、下値で売り急ぐ事も無く、むしろ戻り売りのスタンス。春節明けも混乱が続き再度下値を試す展開か。
光石	ブル	108.00 ～ 111.00	新型コロナウイルスの拡大の影響を注視する必要があるものの、米株は買い遅れている市場参加者によって下支えされると見ていることに加え、日米間の景気の温度差も勘案するとドル円は底堅く推移するものと予想。
山岸	ベア	107.00 ～ 110.00	新型コロナウイルスの全容見えるまで、先行き不透明感からドル円は上値重い展開を予想。日米金融政策は当面据え置きも、米利下げ観測が再燃しており、株価急落などを契機に当局から含みを持たせる発言が出れば、ドル売り圧力が強まる可能性も。
田坂	ブル	108.00 ～ 110.50	新型コロナウイルス感染拡大が中国経済に与える影響を見極める必要があるものの、米株はポジションも軽くなり上昇しやすい状況。再選に向けたトランプの動きも加速するなか、月後半にかけてドル円は米株高を横目に上昇。
尾身	ベア	108.00 ～ 110.00	コロナウイルスの拡大懸念がドル円の上値を重くすると予想。
上野	ブル	108.00 ～ 110.50	コロナウイルスのリスクが顕在化したタイミングでもドル円の下落幅は限定的であった。ヘッドラインリスクは残存するが、市場でみるとさほど大きな混乱は起きていない。再度110円を試す展開がメインシナリオか。

岡本	ブル	108.00 ～ 110.50	新型コロナウイルスへの懸念はピークを過ぎ、再びファンダメンタルズにフォーカスが当たろう。米インフレ弱く低金利が正当化される環境と言え、経済指標の底打ちを確認しながらドル円も緩やかに上昇する展開を予想する。
小野崎	ブル	108.50 ～ 110.50	新型コロナウイルスへの懸念は残るもののリスクは顕在化済。これまでの情報を超えるだけのネガティブヘッドラインが出ない限り下値は限定的か。ただし、110円を超えて上値を迫るには不透明感が残る。
玉井	ブル	108.00 ～ 110.50	新型コロナウイルスは感染拡大を続けており、不透明感が残るものの、徐々に相場の反応は鈍くなりそう。ドル円は下値の底堅さも確認されたことから、株の戻りと共に底堅い展開を予想する。
原田	ブル	108.50 ～ 111.00	コロナウイルス懸念はあるものの、徐々に株式市場は落ち着きを取り戻しており、ドル円も109円の下値堅めを試す展開を予想。但し、今月及び来月にかけて行われる予備選については、相場のボラティリティを高める要因となり留意したい。
大庭	ベア	107.50 ～ 110.50	1月のFOMCで今後年央に向けて金融政策の枠組みを見直す等、これまでよりハト派を示唆。また、足許の新型コロナウイルスによる景気減速懸念も予防的緩和の動機に繋がる材料となり、米金利の低下と共にドル円も下落を予想。
高村	ブル	107.50 ～ 111.50	米・欧・日ともに金融政策は当面据置き公算大。米中摩擦による円高も落ち着き株式市場も堅調な中、相対的に高金利なドル買は買いやすい。コロナウイルスHLにもドル買い・円買いの反応が見られ、これによる円高進行は限定的だろう。
松本	ベア	107.50 ～ 110.50	今後も新型コロナウイルス関連のヘッドラインが警戒され、市場はリスクオン一辺倒には傾きにくい。加えてFOMCを経て、米国の金融政策は再び利下げ観測が出ており、金利面からもドル上値を重くさせそう。
逸見	ブル	108.00 ～ 110.50	コロナウイルスの影響を見極めるのは3月以降に発表される経済指標を検証する必要がある。現時点では材料出尽くし。一方で米企業の良好な決算を受け、リスク許容度が拡大し、ドル円は底堅く推移。
大谷	ベア	107.00 ～ 110.50	新型コロナウイルスに対する不透明感が漂う状況に変わりなく、引き続き上値重く推移すると予想。また米国では、アイオワ州民主党党員集会を皮切りに予備選挙が開始される。左派候補のサンダース上院議員は支持率も高く円高リスク要因となろう。
谷舗	ブル	108.00 ～ 111.00	コロナウイルス感染拡大が実体経済に与える影響を見極める必要があるが、既に出ている数字を見る限り過度の心配は必要ないだろう。米企業決算も好調でドル円は底堅い推移を予想。
大熊	ブル	108.00 ～ 110.50	景気減速懸念はあるものの、米企業決算は良好で米株式市場は堅調さが続いている。新型コロナウイルスの拡大懸念が強まる局面ではリスクオフの円買いとともにドル買いも強まりやすく、ドル/円は底堅い展開を予想する。

## ユーロ相場

予想レンジ: EUR/USD 1.0900 ~ 1.1200  
EUR/JPY 119.00 ~ 123.00

市場営業部 為替営業第二チーム 上野 智久

### ■ 先月の為替相場

年初1月のユーロはじり安の展開となった。

2日に1.12台前半でオープンしたユーロは1.11台後半へ水準を切り下げる動き。3日には米軍のイラン攻撃の報道を受けてリスク回避の動きが強まると、ドル買い優勢となり1.11台前半まで下落する局面も見られた。しかし、冴えない米経済指標を受けたドル売りに1.11台半ばを回復。

次いで6日には米・イラン間の緊張の高まりを意識したドル売りが強まり1.12台まで戻す局面も。しかし、一巡後は1.11台後半まで反落、翌7日には良好な米指標を受けたドル買いに1.11台前半まで下落した。8日、米軍駐留するイラク空軍基地にイラン側がミサイルを発射したとの報道からドル売りが強まるも、トランプ米大統領が軍事的な反撃に言及しなかったことで地政学リスクが後退。ドル買いが強まり、1.11台前半まで下落。9日は米金利上昇を受けたドル買いに1.11付近での上値の重い推移。翌10日も上値の重い推移となったが、米雇用統計の冴えない結果を受けたドル売りに1.11台前半に小幅に反発した。

13日以降はイラン情勢を巡る懸念が一服し、ドルが強含む展開となる。米中第一弾合意の報道もサポートに15日にかけて1.11台半ばまで上昇した。16日に公表されたECB12月理事会議事要旨において、当面の政策据え置き意向が示されたことで、1.11台後半まで上値を伸ばすも、その後発表された、良好な米指標(16日、17日)、ならびに良好な中国指標(17日)を受けて、世界的な景気減速懸念が後退すると、ユーロは17日にかけて1.11を割り込む展開となった。

21日に良好な独指標を受けたユーロ買いで1.11台を上抜ける場面も見られるも、米欧の貿易摩擦懸念が高まりユーロは軟調な地合いとなる。22日にはイタリアの政局不安なども見られるも相場の影響は限定的。その後、中国初の新型コロナウイルス拡大、ならびに良好な米指標の結果を受けて、ドル買いが強まる展開になると、ユーロはじりじりと値を下げて、28日には約2か月ぶりの水準である1.10割れを示現。その後上値の重い推移が続き、結局1.10台前半で月内の取引を終えている。

### ■ 今月の見通し

今月のユーロは上値の重い展開を予想する。

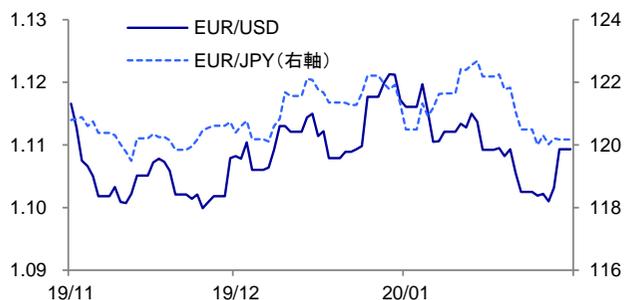
“先月のユーロ相場も”というべきか、ユーロ相場は月初は米イラン間の緊張の高まり、そして下旬は新型コロナウイルスのヘッドラインと欧州域外のヘッドラインに振られる状況が続いた。欧州発のトピックスとしては1月23日に行われたECB理事会が上げられるが、政策金利は据え置き、債券購入ペースも同じく据え置きになるなど、政策面のサプライズはなかった。そして今後の政策運営についても、インフレ目標に近づくまで当面の政策維持が示されている。目新しい内容と言えば、今回の理事会で政策の戦略的な検証を行うことが発表されたことであろう。検証は、2003年以来の大規模なもので“目標を達成する方法・測定方法・使用するツール・コミュニケーション方法”など多方面に亘ること。検証内容には現状の低金利の副作用も含まれており、将来的には抜本的な政策の方針も展望できるかもしれない。しかし、検証は20年後半までという時間軸となっており、短視眼的にみて市場への影響が波及すると考えるのは時期尚早であろう。

このような状況の中、現状に於いて、ECB並びにFRBの金融政策に大きな方針転換が望みにくいと言わざるを得ない。経済面で見ても、米中リスクが多少後退したとは言え、新型コロナウイルス懸念や中東懸念、またイタリアをはじめとする域内政局不安が燦る。そんな中、低迷する欧州経済、とりわけ欧州の製造業が立ち直るきっかけとなるような起爆剤は見当たらないというのが大まかな市場としての見解でもあるだろう。サプライズなかりせば、相場のトレンド転換は起こり得ないだろう。

ユーロについては、引続き域外のヘッドラインに浮沈する主体性の乏しい展開が続くと考えている。一方で、経済に内患を抱えている中で積極的にEURを保有する向きが出るとも考えにくく、上値の重い推移になるのでは。

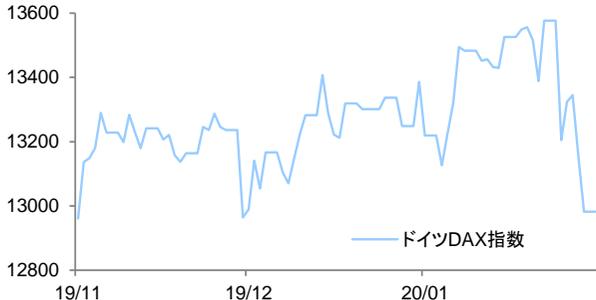
### ■ 為替の動き

(資料)ブルームバーグ



### ■ 株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



### ■ 先月の注目イベント

(資料)ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/7	小売売上高(前年比)	11月	1.5%	2.2%	1.4%
1/9	独鉱工業生産(季調済/前月比)	11月	0.8%	1.1%	-1.7%
1/15	貿易収支(季調済)	11月	22.0bln	19.2bln	24.5bln
1/21	独ZEW調査現状指数	1月	-13.5	-9.5	-19.9
1/23	ECB主要政策金利	1月	0.00%	0.00%	0.00%
1/24	マークイット1-0圏ジョイントPMI	1月	51.2	50.9	50.9
1/27	IFO企業景況感指数	1月	97	95.9	96.3

## カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

### ■ ユーロ/ドル 見通しまとめ

ブル	4名	1.0925 ～ 1.1200	ベア	17名	1.0850 ～ 1.1150
----	----	-----------------------	----	-----	-----------------------

※ レンジは中心値

田中	ベア	1.0850 ～ 1.1150	米中貿易問題やBrexitは小康状態、新型コロナウイルス感染の影響は中国景気動向を通じ欧州経済にインパクトを与える可能性があるがまだ時期尚早。足元、決定打不足もポジティブな材料はなく下値リスクを抱えたレンジ相場継続。
竹内	ベア	1.0850 ～ 1.1150	新型肺炎が与える実体経済への悪影響は今後顕現化する可能性。排ガス規制導入による自動車販売低迷等もあり、明るい材料は少なく、下値を探る展開を想定。
筒井	ベア	1.0800 ～ 1.1200	直近発表された経済指標は欧州経済底打ちを示すが、米対比では依然弱い。新型肺炎は中国経済活動に対悪影響となり欧州経済にも打撃。対米・対英貿易交渉も本格化する中ユーロは更に弱含む可能性大。
加藤	ブル	1.0900 ～ 1.1200	方向感としてのユーロ売り圧力は残存すると思われるものの短期的に売られ過ぎの領域に入りかけており、調整的な動きが起きる可能性が高い。
関	ベア	1.0800 ～ 1.1100	春節明けの中国での経済活動は見極める必要があるが、中国経済の減速に伴うユーロ圏の景気下押しは避けられないと見る。ドル円も下げ基調が強まれば緩やかな動きに留まるものの、ユーロの下落圧力は高まるものと想定。
光石	ベア	1.0800 ～ 1.1300	今回の新型コロナウイルスの感染拡大は、底打ちの兆しが見え始めた欧州の景気に悪影響を与えることは必至。米欧間の経済成長の温度差も勘案すると対ドルでのユーロの上値は重いものとなる。
山岸	ベア	1.0900 ～ 1.1100	ラガルド総裁は1月ECB後の記者会見で「経済は引き続き下振れリスクの方が大きい」と発言。物価目標の見直しも金融緩和の長期化観測につながり、欧州金利は足元低下基調が鮮明になっており、ユーロが売られやすい展開を予想。
田坂	ベア	1.0850 ～ 1.1150	欧州域内経済に回復の兆しが見えつつあるが、あくまで「底打ち感」にすぎない状況。金融緩和策は当面継続、欧州がトランプ関税の次なる標的になりつつあることなど、依然EUR買い材料は乏しく、引き続き上値重く推移しよう。
尾身	ベア	1.0950 ～ 1.1150	ECBの金融政策は引き続き緩和的との見方が強まっているのではないかと思ひ、ユーロは買われづらいと予想する。
上野	ベア	1.0850 ～ 1.1100	欧州と米国で比べると、経済の強さも政策金利も米国の方が勢いがある。コロナウイルスのリスクが顕在化したタイミングでは米ドルの逃避需要も確認された。当面は下値リスクが大きいと考える。

岡本	ベア	1.0800 ～ 1.1200	独仏中心に経済指標の改善が見られるものの、新型コロナウイルスに水を差された格好。加えて対EU通商協議がトランプ政権の重要案件に浮上、下押ししやすい場面が多いと予想される。
小野崎	ブル	1.0950 ～ 1.1200	新型肺炎を背景にしたユーロ売りにより、ユーロへの割安感も覚える。ユーロ売り地合いも一巡したと思われ、新型肺炎についてはこれまでの情報を超えるだけのネガティブヘッドラインが出ない限り下値は限定的か。
玉井	ベア	1.0850 ～ 1.1150	ユーロ圏の経済指標は依然弱く、コロナウイルスによる中国経済への影響はユーロ圏にも及ぶ可能性がありユーロ圏の景気回復は遅れるだろう。上値の重い展開を予想する。
原田	ベア	1.0900 ～ 1.1100	1月の理事会では据置きとなったものの、新体制となったECB及び新理事の動きには注目。ラガルド総裁はフクロウ派だろうが、理事会のメンバーの総意はハト派に傾いており、ユーロ相場は今後も軟調な推移を継続するだろう。
大庭	ブル	1.0950 ～ 1.1100	新型肺炎による中国経済の一時的な停滞が、欧州経済の下振れリスクを意識させ、2月上旬はユーロに買いが入りにくい地合い。一方、感染影響が不透明であるが、足許過度なユーロ売りになっていると思われ、買い戻しの際は早いか。
高村	ベア	1.0850 ～ 1.1150	ラガルド新体制は予想通り金融政策を据置き、政策の大枠を整えるステージに入った。移行期間中に交渉が進むのか、Brexit情勢は気がかりだが材料視はまだ先。ユーロ主導というより、ドルの強さに上値を押さえられる展開を予想。
松本	ベア	1.0900 ～ 1.1150	欧州経済の底打ちが意識され、ユーロ底堅く推移する局面はあったものの上昇は一服した印象。金融政策や欧州内の政治リスクを鑑みてもここからはユーロの上値は重くなっていくものと予想。
逸見	ベア	1.0800 ～ 1.1100	欧州は依然としてファンダメンタルズが弱いうえに、英との通商交渉は難航する見込み。コロナウイルスによる悪影響もあり、ユーロを積極的に買い進めることはリスクと考えられ、ユーロは上値重い展開を想定。
大谷	ベア	1.0900 ～ 1.1100	コロナウイルスへの警戒感や、米・EU間や英・EU間の通商交渉を巡る不透明感も燃ることからユーロは上値重く推移すると予想。一方で欧州域内経済については回復の兆しが見えており、下値も限定的か。
谷舗	ブル	1.0900 ～ 1.1250	新型コロナウイルスの感染拡大を背景にユーロも売られたため、懸念後退とともに買い戻される展開を予想。ただし、欧州域内の経済指標は未だ回復しておらず、本格的な反転はまだ先になりそう。
大熊	ベア	1.0900 ～ 1.1100	新型コロナウイルス拡大により中国経済減速懸念が強まっており、欧州経済の先行きにも悪影響を与えようと思われる。欧州景気の底打ち感はあるものの、経済指標は未だ改善が見られず、ユーロは軟調推移を予想する。

## 英ポンド相場

予想レンジ: **GBP/USD 1.2800 ~ 1.3400**  
**GBP/JPY 138.00 ~ 145.00**

欧州資金部 神田史彦

### ■ 先月の為替相場

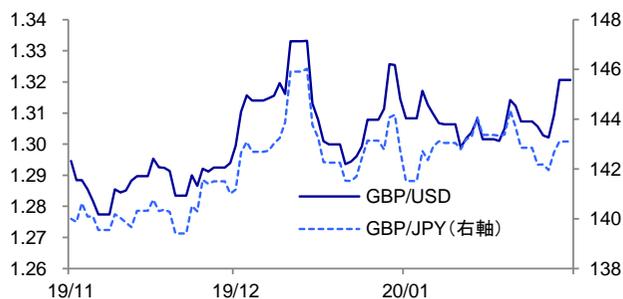
先月のポンドはやや弱含んだ。月前半は利下げ観測の高まりから下落し、月後半は同観測の巻き戻しからポンドに買戻しが入る展開だった。2日、月中高値1.3266を付けて始まるが、昨年末からの買戻しをはき出すスタートで1.32台を割り込む。3日、イラン関連報道にはポンドの反応は薄く、7日に冬休み明けの英議会では離脱関連法案の審議が再開したがこちらも影響はほとんどなし。8日はイランの報復攻撃後、同攻撃で米軍側に犠牲者が出なかったとの報道にドルが強含むとポンドは売られ1.31を割り込む。午後にはトランプ大統領が発言しイラン情勢を激化させないトーンであったことが同トレンドを後押しした。9日、カーニー英中銀総裁がブレクジットの行方次第で利下げが必要になる旨の発言をしたことでポンド売りとなるが1.30台は維持。しかし、10日にテンレイロ英中銀委員も利下げを支持する可能性を支持し、夜にはブリハ委員も経済状況が改善しない条件で1月30日の会合で利下げ票を投じるとのインタビューで利下げ観測強まり、13日にポンドは1.30を割り込む。14日には月中安値1.2955を付けた後に調整で買戻し。15日、ソンドラス委員が再度利下げ訴える(前回はソンドラス委員とハスケル委員が利下げ票)が反応は限定的だったが、17日の英12月小売売上が予想を下回り利下げ観測高まりポンド売りとなった。20日は週末にジャビド英財務相が通商交渉についてEUの規則に従わない、との発言を受けポンド売りは続くも月中安値手前で下げ止まった。21日に英11月までの雇用統計が好調であったことから利下げ観測が低下しポンドが買われると22日には(普段あまり注目されないものの)英1月製造業楽観指数が予想を上回りポンド買戻しがさらに進む。23日のECB政策理事会後のラガルド総裁会見後にユーロが下落する中ポンドも連れ安となるが、24日の英1月総合PMI速報値が予想上回り2018年9月以来の高水準となり利下げ観測が後退し1.31半ばを回復。ただ、織込み済みだったこともあってかポンドは直後に反落となると翌週は1.30を挟んだ上値重い値動きが続く。30日、注目の英中銀会合は前回同様7対2で政策据え置きとなるとポンドは1.31台に買い戻された。

### ■ 今月の見通し

今月のポンドは方向感が出にくいと予想する。2016年6月の国民投票で決定されたブレクジットは、1月末をもってようやく実現するものの、2020年末までの移行期間に入るため実質的には影響はない。しかし、先月英議会を無事に通過した離脱協定法案(EUとの離脱協定案を英国法に適用したもの)において、移行期間の延長は、たとえEUと自由貿易協定が結ばれていなかったとしても認めないこととなっている。通常、自由貿易協定の締結には相応の時間がかかることは定説であり、そもそもEU側が移行期間の延長を検討する期限の今年6月末までに何等かの結論に至るのは絶望的ではないだろうか(2月25日の理事会で欧州委員会が交渉方針を決め、実交渉は3月3日から本格化する見込み。無論、英政府は移行期間の延長はしないと決めてはいるが)。これにより、既に報道されているように、今年の年後半あたりから再び「合意なき離脱」懸念が台頭する可能性が高い。ちなみに、英国選出の欧州議会議員は職を失うことになる一方で、移行期間中はEUルール下での貿易が続くことになり、英国のEU予算への拠出も続く。これが英国が移行期間を早々に終わらせたい背景の一つでもあるのだろう。とはいえ、現時点では年内決着を目指すとのコメントが英・EU双方から出ているとのヘッドラインもあり、同リスクが現実問題として意識されるまではポンドは買われる場面も見られるだろうが、上値は限られるのではないだろうか。ポンドにポジティブな話題としてはブレクジットを控えた財政出動も考えられる。予算案が3月に出てくるため、同ヘッドラインにも注目が集まる。また先月利下げを巡って盛り上がった英中銀だが、カーニー総裁体制下での政策決定は前回で終わり、次回3月26日会合からはベイリー新総裁の下での運営となる。本来はブレクジット後のかじ取りもカーニー総裁が行う予定ではあったが、当初の2019年3月での離脱が延期となったこともあり実現しなかった。ベイリー新総裁の政策スタンスは判断としておらず未知数で、今後の言動が耳目を集めるのは言うまでもない。なお、新型コロナウイルスについてポンドは特に反応は示していないが、今後リスクオフが強まる場合には特にポンド円で下方圧力が高まりやすいことにも留意が必要だ。

### ■ 為替の動き

(資料)ブルームバーク



### ■ 株価指数の動き

(資料)ブルームバーク



### ■ 先月の注目イベント

(資料)ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/2	製造業PMI	12月	47.6	47.5	47.5
1/3	建設業PMI	12月	45.9	44.4	45.3
1/6	サービス業PMI	12月	49.1	50.0	50.0
1/13	鉱工業生産(前年比)	11月	-1.3%	-1.6%	-0.6%
1/15	消費者物価指数(前年比)	12月	1.5%	1.3%	1.5%
1/17	小売売上高(含自動車/前年比)	12月	2.7%	0.9%	0.8%
1/21	ILO失業率	11月	3.8%	3.8%	3.8%
1/24	製造業PMI	1月	48.8%	49.8%	47.5%
1/30	英中銀政策金利		0.75%	0.75%	0.75%

## 豪ドル相場

予想レンジ: **AUD/USD 0.6600 ~ 0.6850**  
**AUD/JPY 72.00 ~ 74.50**

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 安藤 愛

### ■ 先月の為替相場

先月の豪ドルは、0.70台から0.68台半ばまで下落。

12月末は、米中通商合意への期待からリスク選好の動きが強まり豪ドルは0.70台まで上昇。年明け3日、米軍によるバグダッド空爆をきっかけに中東情勢が緊迫化。リスクオフの動きとともに豪ドルは一時0.6930台まで大きく調整した。7日、米12月ISM非製造業指数が予想比堅調だったことを受けて、米ドルに買戻しの動きが入り、豪ドルは一気に0.6850台まで下落。10日、豪11月小売売上高が予想を上回り、0.6900台まで値を戻した。

注目されていた第一段階米中通商合意が15日に無事署名され、翌日16日、米主要株価はギャップ・オープン後、軒並み最高値を更新。豪ドルもリスクオフの流れから0.6930台まで強含む局面があったものの、同日発表の米12月小売売上高がそこそこ良好だったことから米ドル買いが強まり、再び0.69割れとなった。17日、発表された米12月住宅着工件数前の予想外に強い結果を受けて、米ドル買いから豪ドルは上値を抑えられ0.6870台へ下落。

21日、新型コロナウイルス感染にかかるニュースが市場を走り、リスクオフの流れに、株式相場も急落し豪ドルは0.6840台まで低下。23日、注目されていた豪12月雇用統計が予想以上に良好な結果だったことを受けて、RBA2月会合における利下げ観測が後退。一時0.6880近辺まで上昇したがすぐに失速し、再び0.6840台まで下落した。27日、シドニー休場中、新型コロナウイルス感染拡大への懸念を受けて主要株価、米金利は大幅下落。28日はリスクオフの流れが一巡し、豪ドルは年初来最安値となる0.6737を付けた後、0.6760台まで小幅上昇した。29日発表された豪10～12月期消費者物価指数は予想比上ぶれる結果となり、利下げ観測後退を背景に豪ドルは0.6770台まで回復。しかしその後はFOMC前後のドル買いで再び豪ドルに売りがふくらみ年初来最安値を再び更新した(0.6736)。

### ■ 今月の見通し

2月の豪ドルは上値の重い展開を予想。

直前までちやぶ台返しのリスクを含んでいた「第一段階」米中通商合意が年初に無事締結され、市場は一旦リスクオンとなったものの、折からの新型コロナウイルス騒動で、1月下旬は一気にリスク回避の動きとなった。オーストラリアでも感染者が報告されており、今後の観光産業への影響及び中国景気減速による輸出低迷が懸念される。豪国内の森林火災の影響と相俟って、消費者心理や支出を一段と圧迫する可能性が指摘されている。

国内ファンダメンタルズは、豪11月小売売上高、豪12月雇用統計、豪10～12月期消費者物価指数ともに予想以上に堅調な結果となり、経済及び物価の緩やかな回復を裏付ける内容となった。特に失業率が5.1%まで低下したことは市場にサプライズを与え、金利先物が織り込む2月RBA理事会での利下げ確立は雇用統計前の60%から発表後は17%まで大きく低下した。予想より力強い雇用統計に加え、上向きのインフレ指標を踏まえ、2月豪州準備銀行(RBA)会合では政策金利据え置きがメインシナリオとなっている。ただし、上述の通り、森林火災、コロナウイルス騒動などによる市場心理悪化に加え、年初以降に発表された米経済指標が底堅く米ドル買い戻しの動きが続く中、豪ドルが積極的に上値を追っていくような局面はしばらく「おあずけ」と考える。ただし、コロナウイルス収束に目処がたったタイミングで、豪ドルが大きくリバウンドする可能性には留意したい。

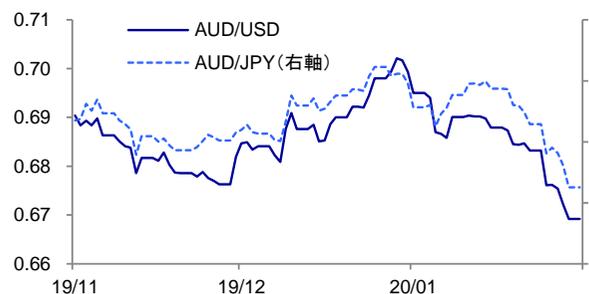
### ■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地で人気の動画配信サービスやTV番組』

北米で製作されたシリーズですがBrooklyn Nine-Nineという刑事コメディが現在Netflix配信されており、豪州では人気です。ブルックリンにある99th地区のニューヨーク市警察署ペラルタ刑事とイケてなさ過ぎる刑事仲間達が真剣すぎて面白いコメディです。当ディーリングルーム内では観ている人が半数以上でシリーズ中に出てきたネタは必ず皆真似をします。現在はシーズン7まで製作されており、よく面白い台本と展開が続くなあと感じさせられます。プロデューサーはあの名作“The Office”を作製したMichael Schurと“The Daily Show, Last Call with Carson Daly”作製のDan Goorです。まだ観ていない方は必見です！(川口)

### ■ 為替の動き

(資料)ブルームバーグ



### ■ 株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



### ■ 先月の注目イベント

(資料)ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/8	住宅建築許可件数(前月比)	Nov	2.0%	11.8%	-8.1%
1/9	貿易収支 (A\$ mn)	Nov	4,100	5,800	4,075
1/10	小売売上高(前月比)	Nov	0.4%	0.9%	0.1%
1/23	失業率	Dec	5.2%	5.1%	5.2%
1/23	労働参加率	Dec	66%	66%	66%
1/29	消費者物価指数(前季比)	4Q	0.6%	0.7%	0.5%
1/29	消費者物価指数(前年比)	4Q	1.7%	1.8%	1.7%

## カナダドル相場

予想レンジ: USD/CAD 1.3100 ~ 1.3400  
CAD/JPY 81.00 ~ 84.00

グローバルマーケット業務部カナダ室 芦崎 瑞穂

### ■ 先月の為替相場

1月はUSD/CADは1.2994でオープン。月初こそ米国とイランが対立が表面化し、原油供給懸念によるWTI(原油価格)の高騰を手掛かりにカナダドルが上昇したが、その後、米国イランの衝突回避により、原油価格が下落。カナダの経済指標はまちまちで、カナダ中央銀行の金融政策がハト派へとシフトした事によりカナダドルが急落。続落する原油価格とともに、総じてカナダドル安が進む月となった。

3日、米国がドローンによる空爆でイランのソレイマニ司令官を殺害。イランが報復する構えを見せているとの報道に、原油価格が63.84まで上昇、カナダドル買いが進んだ。7日原油価格が65.65まで上昇すると、カナダドルは1月最高値の1.2957をつける。イランが報復としてイラクにある米国軍施設をミサイル攻撃し、緊張は益々高まるが、トランプ大統領の演説で米国はイランへ武力行使ではなく経済制裁を行うとの報道があり、中東情勢の緊張緩和に原油価格が59.15まで大きく反落すると、それにつれて、カナダドルも1.3044まで下落。

その後9日カナダの12月住宅着工件数は19.73万件(予想21.05万件)、11月建設許可件数は前月比-0.4%(予想+1.0%)とともに予想を下回ったことから、カナダドル売りが更に進み、1.310を上抜ける。10日カナダ12月雇用統計は雇用変化が35.2万人増と予想(2.5万人増)を大幅に上回り、失業率も11月(5.9%)から5.6%回復したが、石油下落によりカナダドル買いは限定的となり1.3029をつけた後、再び反落する。15日第一段階の米中貿易合意署名調印式が行われ、米12月卸売物価指数が予想を下回ったことから、米ドル売りとなりカナダドルが小反発。1.303-1.305の狭いレンジで推移。

22日、政策金利決定会合ではカナダ中央銀行は政策金利を予想通り1.75%に据え置き、声明文がハト派的な内容であったこと、ボロス総裁の会見でも将来的な利下げに関する言及があったことから、カナダドル売りとなり一気に1.3153まで急落。月末に向けて感染が拡大するコロナウィルスの影響がグローバルに懸念され、米ドル買いが進みUSD/CADは上昇27日に1.320をつけている。

### ■ 今月の見通し

カナダ中央銀行は今回も政策金利を予想通り1.75%に据え置いた。声明文では最近のカナダの経済指標が予想外に軟調であるとし、今後、個人消費、住宅市場、企業投資などの伸びが鈍化し、経済成長の減速が長引くようであれば利下げの可能性もあると示唆した。しかし、カナダの家計負債が世界的にみて高い水準にあることにも言及しており、利下げには慎重な姿勢が伺える。また、住宅市場は減速気味だが、移民の増加が続いており住宅需要が根強いことから、依然として市場は健全に推移するとの見解を示した。

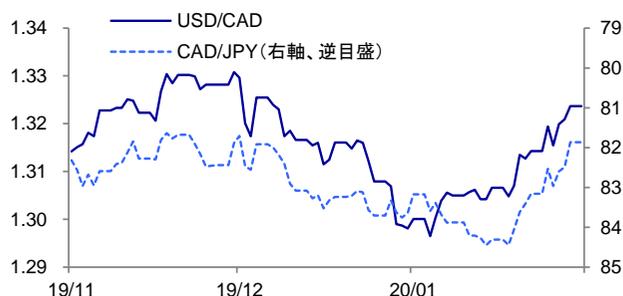
9日のカナダ中央銀行ボロス総裁の演説では、米中通商合意がカナダの輸出にどのような影響を及ぼすかが不透明であり、今後注視していく必要があると言及。また、製造業の鈍化がサービス業、雇用、消費に影響を及ぼす事も懸念。世界的にも製造業は未だ回復していないが、製造業不振でもサービス業、個人消費が好調であれば景気は腰折れしないとの楽観的な見方がされてきた。しかし、長引く製造業の不振とその影響に不安が広がりつつもある。米中による第一段階通商合意で中国政府は2000億ドル規模の米国製品を購入することに公約したが、それによりカナダの中国への輸出が減少するとも考えられるのではないだろうか。また、2018年カナダが米国の要請により中国通信機器メーカー、ファーウェイのCFOを逮捕した事を機に、カナダ中国の関係が悪化。中国はカナダからキャノーラ油、大豆などの輸入量を減らす制裁措置をとっており、未だ制裁措置は解除されていない。そのファーウェイCFOの身柄引き渡しを決定する審理が20日に始まり、その行方が注目されている。コロナウィルスの拡大によりキャノーラ油の中国への輸出は更に減少すると懸念から、キャノーラ油価格が大幅に下落した。2月はコロナウィルスの感染拡大により原油需要の減少が懸念される中、OPEC+OPECプラスなどの産油国がどのような対応をとるか、引き続き原油市場に注視したい。また、28日発表のカナダ第四半期GDPにも注目。目先は、コロナウィルス拡大でのマーケットに広がる不透明感からの安全資産買いが進みカナダドル安が続くと思われる。

### ■ 今月のつばやき(現地からの声)

『当地で人気の動画配信サービスやTV番組』カナダには国営テレビのCIBC、民営のCTV、Global Network という3大ネットワークがあります。テレビ業界はアメリカのメディアから大きな影響を受けており、多くのアメリカの番組が放送されています。人気番組は大体アメリカとカナダの両国で放送されていますが、アメリカの番組に偏らないよう、カナダの番組がある程度の割合を占めるよう政府によって定められています。カナダの番組「degrassi」「trailer park boys」などは他の国でも人気を呼んでいるようです。私が最近見始めた「kim's Convenience」もカナダのドラマで、内容もさることながら、トロントの景観も楽しめ、10年以上通勤に使用しているGO・TRAINが映ることもあり、テンションが上がります。ついでながらこの電車、二階建てで、平時によく遅れがでて困惑することもある反面、雪の時は時間通りに頑張ってくれる電車でもあります。話が脱線しましたが、カナダにはタイムゾーンがあり、生放送はそれぞれ異なる時間での開始となり、例えばトロントで8時の放送の番組は、ウィナペッグで7時、カルガリーで6時、バンクーバでは5時に放送されます。広大な国土ゆえの差異というわけです。独自性の点では、Aboriginal Peoples Television Networkが挙げられます。北米初として1992年開始されたネイティブの人たち向けの番組を提供するテレビ局で、番組は56%が英語、16%がフランス語、28%がネイティブ語といった多言語での放送です。カナダならではのバラエティーに富んだ面白いものがありますので、機会があれば是非ご覧になってください。

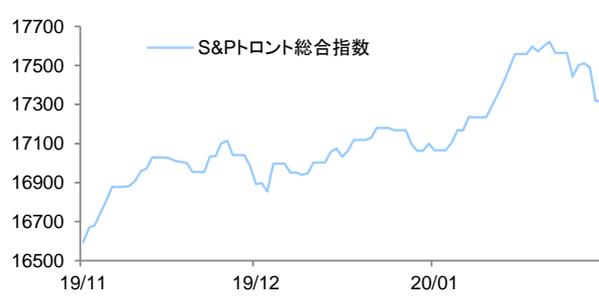
### ■ 為替の動き

(資料)ブルームバーグ



### ■ 株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



### ■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/7	貿易収支	11月	-1.20bn	-1.09bn	-1.08bn
1/9	住宅着工件数	12月	210.5k	197.3k	201.3k
1/10	雇用者数変化	12月	25.0k	35.2k	-71.2k
1/10	失業率	12月	5.8%	5.6%	5.9%
1/10	平均自給率(YOY)	12月	4.2%	3.8%	4.4%
1/22	カナダ中央銀行政策金利	1月	1.75%	1.75%	1.75%
1/22	消費者物価指数(YOY)	12月	2.3%	2.2%	2.2%
1/24	小売売上高(前月比)	11月	0.6%	0.9%	-1.2%

## 韓国ウォン相場

予想レンジ:	USD/KRW	1150	1210	(注) 100韓国ウォンあたりの対円レート
	KRW/JPY	9.009	~ 9.524	
	JPY/KRW	10.500	~ 11.100	

ソウル資金室 下山 泰典

### ■ 先月の為替相場

1月のUSD/KRW相場は、前月末比上昇した。月初は1153.80でオープン。3日の米軍の空爆によりイラン精鋭部隊の司令官が死亡との報道等を受けセンチメントが急速に悪化、翌週8日のイランが在イラク米軍基地を攻撃との報道後は1180手前まで上昇した。しかし、トランプ大統領からイランへの軍事攻撃は望まない旨の声明もあり、その後は反落。実需の動きやBOK会合前の投機筋のポジション調整から、14日に月安値となる1150.60まで下落した後は、1150台後半～1160近辺でのみみ合い推移となった。なお、17日のBOK会合では1名と目されていた利下げ票が2名だったなど事前の観測との相違点はあったが、影響は限定的だった印象だ。その後、21日に新型コロナウイルスによる肺炎拡大懸念で中国・香港株発でセンチメントが急速に悪化、翌22日には1170.00まで上昇した。翌週も引き続き新型コロナウイルスのリスクやサプライチェーンへの影響等から中国経済ならびに世界経済に下押し圧力がかかる可能性が意識される中で、ドル/ウォンは上昇圧力を強め、31日には月高値となる1191.90まで上昇、1191.80でクローズした。

### ■ 今月の見通し

2月のドル/ウォン相場は、底堅い展開を予想する。材料としては、新型コロナウイルスの感染拡大懸念ならびにその影響がどうしても意識されよう。韓国経済は中国経済への依存度が高いところ、経済活動への悪影響等が本格化すれば、ウォンや韓国株には一段とネガティブに働くだろう。一部では、1～3月期の中国GDP成長率が前年対比+5%を割り込むとの観測も出ている。また、同肺炎の潜伏期間は10日程度とも言われる中、中国の春節に伴う人の移動で拡散した可能性のあるウイルスによる症状の発現は2月上旬との見方もある。今後の動向次第ではあるが、特に今月上旬はこのニュースによってドル/ウォン相場が押し上げられる可能性を意識しておきたい。また、2月のBOK金融通貨委員会を巡る思惑も意識したいところ。1月のBOKでは2名の利下げ票があったものの、総裁の発言からは切迫した利下げの意識はくみ取りがたく、また年初に文大統領が不動産投機を抑制する方針を示したことで、4月の国会議員選挙前の利下げへの意識がやや後退しているように感じている。良好だった2019年10-12月期GDP(速報値)や、半導体市場の改善期待なども影響している可能性がある。この状況では金融政策起因でのウォン売りは回避されるかとも思われるが、ここでも新型コロナウイルスの影響を考えたいところ。中国経済ならびに韓国経済へのネガティブインパクト次第では、利下げ観測が台頭してくる可能性もあり、注意を要したい。米国に目を向ければ、FEDは金融政策を当面据え置くだろうが、2月は政治面を意識したいところ。3日には11月の大統領選挙に向けた予備選がアイオワ州からスタートするほか、4日には一般教書演説が予定されている。センチメントに影響する結果・内容となる可能性もあるため注意したい。上記を勘案、足元ではドル/ウォンを強く押し下げようようなポジティブな要素を見出しがたいとの印象が強い。ドル/ウォンはセンチメント等に大きく影響されやすいところ、当然ながら上下双方向への動きを意識したいところだが、基本的には底堅い展開を予想したい。

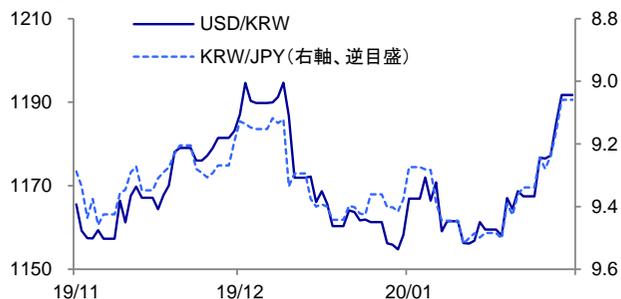
### ■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地で人気の動画配信サービスやTV番組』

韓国では、日本で有名な動画配信サービスも楽しむことができます。そんな中で、こちらのスタッフから教えてもらった、昨年とても話題になった女の子についてご紹介したいと思います。某有名動画配信サービスに動画を投稿しているその女の子。年齢的には小学校に上がるかどうかというぐらいでしょうか。ただ、その子のチャンネル登録者数は複数チャンネルの合計で3,000万人規模だそうです！韓国の人口がざっくり5,000万人ですから、その割合たるやすごいものがありますよね(もちろん韓国外の登録者や、重複した登録者もたくさんいるのでしょうか)。投稿している動画は、日常の一場面を切り取ったものが多いようですが、その女の子がお家のお手伝いをしてる姿などもあり、自宅での教育の一環として見せている親御さんも多いのだとか。そして、驚くべきはその女の子の収入です！当然ながら数値はわかりませんが、一部報道では、江南区(ソウルの一等地、日本でいうところの銀座や六本木でしょうか)に8億円を超えるビルを購入したとのこと。いやはや・・・ということですね！才能を持ち、その活かし方を知った人が到達できる領域なのでしょう・・・さて、今日も仕事をしましよ。

### ■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



### ■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



### ■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/1	輸出(前年比)	12月	-8.6%	-5.2%	-14.4%
1/1	輸入(前年比)	12月	-6.9%	-0.7%	-13.0%
1/7	経常収支	11月	-	\$5974.8M	\$7827.2M
1/15	失業率	12月	3.6%	3.8%	3.6%
1/17	BOK政策金利	-	1.25%	1.25%	1.25%
1/22	GDP(前年比、速報値)	4Q	1.9%	2.2%	2.0%
1/31	鉱工業生産(前年比)	12月	1.0%	4.2%	-0.3%

## 台湾ドル相場

予想レンジ: USD/TWD 29.80 ~ 30.60  
TWD/JPY 3.50 ~ 3.70

台北資金室 三浦 勇二

### ■ 先月の為替相場

1月のドル/台湾ドル相場は、ドル高台湾ドル安。

月初のドル/台湾ドルは30.110でオープンすると、輸出企業のドル売りなどから一時29台へと軟化する場面もみられたが、中東情勢の緊張の高まりを背景としたリスクオフの動きを受けて株式市場からの海外資金の流出が膨らみ、ドル買い台湾ドル売り優勢の流れとなり、30台を回復。1/8には、イランによる米軍基地攻撃を受けて、30.160の高値を付ける展開となった。

しかしながら、ザリフ・イラン外相が「我々はエスカレートや戦争を求めている」と述べたことや、トランプ米大統領の「米軍は軍事力の行使を望んでいない」との発言が市場参加者のリスク回避ムードの後退につながり、ドル/台湾ドルは再び29台へと反落。また、1/11に開催された台湾総統選ならびに立法院（日本の国会に相当）選挙では、与党民進党の蔡英文総統が再選し、立法院選挙でも民進党が過半数を維持する結果。週明け1/13の台湾市場は、選挙を波乱なく通過した安心感から株高ならびに海外資金の流入が膨らみ、ドル売り台湾ドル買い優勢で推移。1/14にかけて、ドル/台湾ドルは29.850まで下落する形となった。

もともと、その後は春節の長期休暇を控え、株に利益確定売りが入り、上値重く推移したことや、新型コロナウイルスの感染拡大が懸念され、リスクオフムードが強まり、ドル/台湾ドルは29.9台を中心として底堅く推移し、春節の休暇入り。春節期間中は新型コロナウイルスの感染拡大が続き、海外市場ではリスクオフの流れが継続。これを受け、休暇明けの1/30は株価の大幅安とともにドル買い台湾ドル売りが先行。ドル/台湾ドルは30.2台後半まで急伸する展開となった。

### ■ 今月の見通し

2月のドル/台湾ドル相場は、底堅い推移を見込む。

1月に発表された台湾の経済指標では、12月の輸出額が前年比+4.0%と2か月連続でのプラス成長を記録。内訳をみると、主力の電子部品が同+11.9%、米国向け輸出が好調なIT・通信製品が同+15.1%と大幅な成長を続け、全体の伸びをけん引した。2019年通年でみると、年後半に持ち直しをみせたものの、年前半の中国向け輸出の落ち込み起因する減少分を補いきれず、通年で1.4%のマイナスとなった。そのほか、12月の消費者物価指数は、総合が前年比+1.13%で前月の同+0.59%から物価の伸びが加速した一方、変動の大きい生鮮食品を除いたコアは同+0.57%で前月とほぼ変わらず。食品価格の上昇が総合指数を引き上げた形となったものであり、全体的なインフレが加速している状況ではないとみられる。

2月は新型コロナウイルスの感染拡大が続くかどうか注目される。1月は月半ばにかけては中東情勢への懸念の後退や、台湾総統選、立法院選挙を波乱なく通過したことが好感され、ドル安台湾ドル高基調で推移し、ドル/台湾ドルは29台が定着しかけていたものの、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、春節明けには株価の大幅安とともに、ドル/台湾ドルは30.2台まで急伸。一部、サプライチェーンへの影響も懸念され、台湾株の下落幅は海外の主要指数を上回るものとなっているが、こうした株安の流れが続くようであれば、引き続き、ドル台湾ドルは台湾ドル安方向へ振れることとなりやすい。

そのほかでは、米国や中国の主要経済指標の結果が市場の材料となる。1月FOMCで「新型コロナウイルスなど見通しに関して不透明感が残っている」と言及されたように、新型コロナウイルスという新たなリスクにより、世界経済の減速が懸念され始めている。そうした中で、経済指標の悪化が顕著となる場合、次回3月FOMCにおける予防的利下げ再開への期待が高まることが想定されるか。

### ■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地で人気の動画配信サービスやTV番組』

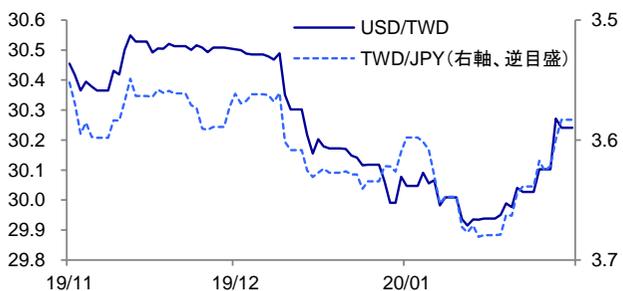
台湾においても、日本や他の国・地域と同様に、YouTubeがもっとも人気の高い動画配信サービスのひとつとなっています。

例えば、千千さんは大食いでも有名なYouTuberのひとりです。外見は細身ですが、彼女のYouTubeチャンネル「千千進食中」では、麺類やステーキ、スイーツなど、あらゆるものを大食いしています。日本でも似たような大食いYouTuberが多くいますが、台湾でも大食いは人気のジャンルようです。

そのほか、「阿滴英文」は人気の英語学習チャンネルとなっています。シンガポールに留学経験のあるYouTuber兄妹が配信している動画で、昨年には200万回再生を達成しています。

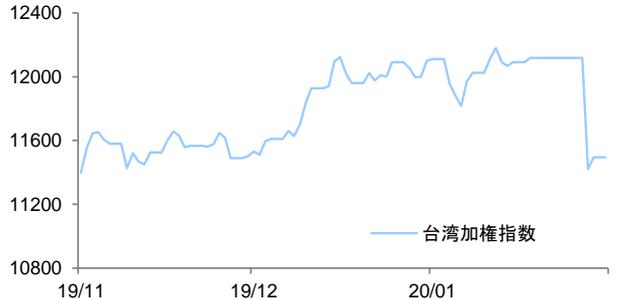
### ■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



### ■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



### ■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/6	外貨準備高	12月	-	478.13B	474.05B
1/7	CPI(前年比)	12月	1.0%	1.1%	0.6%
1/7	輸出(前年比)	12月	3.1%	4.0%	3.3%
1/7	輸入(前年比)	12月	5.0%	13.9%	5.8%
1/7	貿易収支	12月	4.37B	2.50B	4.28B
1/20	輸出受注(前年比)	12月	0.4%	0.9%	-6.6%
1/21	GDP(前年比)	Q4	2.8%	3.4%	3.0%
1/22	失業率	12月	3.7%	3.7%	3.7%
1/22	鉱工業生産(前年比)	12月	3.7%	6.0%	1.8%

(資料) ブルームバーク

## 香港ドル相場

予想レンジ: USD/HKD 7.7600 ~ 7.7800  
HKD/JPY 13.70 ~ 14.20

香港資金部 Ken Cheung

### ■ 先月の為替相場

#### 【1月の香港ドル直物相場】

1月の香港ドル相場は、デモ情勢及び米中両国の対立への市場の関心が薄れる中、投資家による香港ドル-米ドル間の金利差を狙った香港ドル買い米ドル売りキャリアポジションの再構築により、7.77台から2017年3月以来の高値となる7.7624まで上昇した。中資系企業のIPOが続いたことも、投機筋による香港市場への資本流入を後押しした。一方で、マクロ的観点からは、香港経済の減速リスクは依然大きく懸っている状況だ。小売売上高とPMIの数字こそ安定していたものの、失業率は2年半ぶりの水準となる3.3%まで上昇するなど、混乱の収束は見えない。致死性の高い新型コロナウイルスの拡散は、香港経済の成長見通しを悪化させるだろう。香港ドル1年フォワードポイントは3年ぶりの水準となる+200ポイント越えまで続伸した。

#### 【1月の香港ドル金利市場】

香港ドルの流動性状況は、年末の季節的な資金需要に続き、1月を通して計21社ものIPOが活発に行われたことで比較的逼迫した状況が続いている。翌日物香港ドルHIBORが時折2%を越えるなど、HIBORカーブ全体に底堅く、1か月物と3か月物の香港ドルHIBORはそれぞれ1.9%と2.2%で値固めをした後、それぞれ2.1%と2.3%へ上昇した。香港市中銀行間金利は銀行の調達コストの上昇を反映し、11年ぶりの1.09%へと上昇し、1か月物と3か月物の香港ドル-米ドル間の金利差はそれぞれ約40bpsと約50bpsで維持された。香港ドル-米ドル間の金利差が香港ドルスポット市場のドライバーとなっており、香港ドル金利スワップレートは米金利の低下に追随し3年5年共に2%を割った。

#### 【1月の香港株式市場】

ハンセン指数は、米中両国による貿易協定の第1段階合意署名を受け9か月ぶりの高値となる29,174まで続伸。香港情勢の一般に加え、中資系企業のIPOが続いたことで香港株式市場への資金流入へと繋がった。しかしながら、その後は中国発新型コロナウイルスの拡散を受け、27,000レベルへと急反落した。

### ■ 今月の見通し

#### 【2月の香港ドル直物相場】

2月の香港ドルの取引レンジは7.76-7.80と予想する。引き続き香港ドル-米ドル間の金利差が香港ドルを支えるだろうが、中国発新型コロナウイルスの拡散による株式市場の下落が、ここから一段の上昇へは重石となるだろう。市場がリスクオフムードへ切り替わる中、中資系企業による今後のIPOの予定は後ろ倒しの状況となっており、米中両国の緊張が長引けば中止となる可能性もある。2003年第三四半期のSARSの時のような中国当局による効果的な対策も見込めず、香港政府の予算拡大や信用低下が香港資産への投資妙味を低下させるだろう。中資系企業によるIPOの計画が今後確定したとしても、香港市場への資金流入は限定的なものとなるだろう。

#### 【1月の香港ドル金利市場】

2月の香港ドル金利は、活発だったIPO活動の予定が減り流動性の逼迫が落ちることから低下が予想される。資本流出への懸念は比較的まだ穏やかであり、香港ドルスポット市場が7.85へと下落し、HKMAによる流動性吸収を招くといった可能性は低い。香港ドルの流動性状況を計るHKMAのアグリゲートバランスは、540億香港ドルで維持されるだろう。仮に中国発新型コロナウイルスが世界的に拡散した場合は、FRBの緩和バイアスが急速に織り込まれ、米金利が低下し香港ドル金利の低下を招く可能性がある。

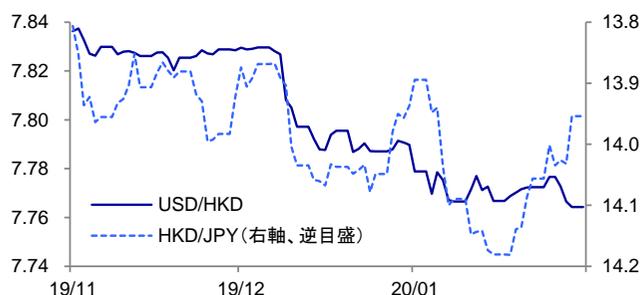
### ■ 今月のつづやき(現地からの声)

#### 『当地で人気の動画配信サービスやTV番組』

香港で作成されるテレビドラマはかつて、香港や中国の人達の間でも人気がありました。香港の人たちは皆仕事が終わるとテレビドラマを見るために急いで家に帰り、週末も家でテレビドラマを見るという生活が一般的でした。しかしながら、脚本のマンネリ化やテレビスターと呼ばれるような人たちがいなくなったことで、香港ドラマの質が落ち、かつての人気が無くなってきています。YOUTUBEなどの動画配信サービスの拡大により、韓国や日本のドラマに人気が移ってきていることも香港ドラマの人気低下の一因となっています。

### ■ 為替の動き

(資料)ブルームバーグ



### ■ 株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



### ■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/3	小売売上高(価額、前年比)	11月	-24.6%	-23.6%	-24.4%
1/6	日経香港PMI	12月	-	42.1	38.5
1/7	外貨準備高	12月	-	\$441.3b	\$434.2b
1/20	失業率(季調済)	12月	3.3%	3.3%	3.2%
1/20	CPI(コア、前年比)	12月	3.0%	2.9%	3.0%
1/30	貿易収支(HKD)	12月	-33.7b	-32.5b	-26.2b
1/30	輸出(前年比)	12月	2.7%	3.3%	-1.40%
1/30	輸入(前年比)	12月	-1.9%	-1.9%	-5.8%
1/31	財政収支(香港ドル)	12月	-	95.1b	-25.7b

## 中国人民幣相場

予想レンジ:	USD/CNY	6.8000	7.1000
	CNY/JPY	14.93	~ 16.32
	100JPY/CNY	6.1300	~ 6.7000

みずほ銀行(中国)有限公司 中国為替資金部 矢野 慧

### ■ 先月の為替相場

#### 【為替相場】

1月のUSD/CNYはリスクセンチメントの改善から元高進行。

月初は米国とイランの緊張が高まる中、一時リスクオフの展開となりドル買いが優勢に。一時6.97台後半迄上昇する場面もあったものの、その後米国とイランの緊迫が一旦収束すると、リスク回避ムードが和らぎ、人民元に買い戻しが入ったことで、月の中盤には一時6.86台へ。

15日、米中通商協議の「第一段階」合意文書調印式を無難に通過。真新しい材料も無かった事から相場への影響は限定的となり、しばらくは6.88を挟んで推移。17日に発表された2019年第4四半期GDPは市場予想通りの6.0%、2019年のGDPは2018年の6.6%から▲0.5%となったが、2019年のGDP成長率目標である6.0%~6.5%のレンジに収まった。更に鉱工業生産、小売売上高、固定資産投資など主要経済指標が堅調な結果となったことを受けて、元は強含み一時6.84付近まで元高進行。

春節前になると、新型コロナウイルス影響拡大の報道をきっかけにリスクセンチメントが悪化。世界的に株価が下落する中、人民元安進行し、6.93を超える水準へ。

#### 【金利相場】

PBOCが1日、金融機関への安定的な資金供給を目的に6日から預金準備率を50bp引き下げ、8000億元規模の資金供給を実施することを発表。但し昨年末から予想されていたこともあり、金利相場への影響は限定的となった。

更に公開市場操作やMLF新規実行を通して、潤沢な流動性が維持された為、春節越えとなるターム物の上昇も月の中盤で一服。その後、春節前までマネー金利は安定的に推移した。

### ■ 今月の見通し

#### 【為替相場】

2月の人民元相場は底堅い推移を予想。

「第一段階」米中通商合意によるリスクセンチメント改善から、底堅い推移が継続すると思われる。一方で「第二段階」米中合意については、困難な課題が残されていること、米中間が合意に達する前に関税が更に引き下げられることはない想定されること、「第一段階」合意に対しても、実行可能性に疑問が残されていることから、一方的な人民元高ともならないだろう。

武漢での新型コロナウイルス発生は、リスクセンチメントの悪化や、中国の消費に打撃を与え、中国の成長見通しを更に曇らせる可能性があり、元安リスクとなり得るだろう。

#### 【金利相場】

春節を越え資金調達ニーズも一服し、資金市場は安定的な推移を予想。

足許では資金市場に新型コロナウイルスによる影響は見られていない。潤沢な資金流動性は維持すると見られ、足許水準での推移が継続すると思われる。一方で春節後に急激な新型コロナウイルス感染拡大となれば、景気下押し懸念が広がり、リスクオフ、金利低下となる可能性はある為、関連報道、当局の動きには注意したい。

### ■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地での人気の動画配信サービスやTV番組』

中国の人気動画配信サービスといえば、「bilibili」です。一般ユーザーによる、オリジナル動画や二次創作物の投稿もあれば、生放送も出来ます。更に投稿動画に対して、視聴者が画面上にコメントを表示する機能も持っている動画配信サービス。日本のニコニコ動画のような感じでしょうか。

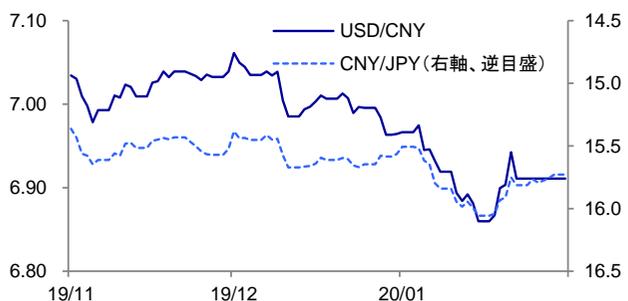
日本の番組と提携し、正式コンテンツとして、有料にて動画配信も行っています。最近日本で大人気の、「鬼滅の刃」や「僕のヒーローアカデミア」などの日本アニメを有料で配信しており、中国でも人気となっています。

ニコニコ動画とNetflixの機能を併せ持ったような素晴らしいサービスであり、ユーザー数も多く、月間アクティブユーザーは1億2800万人に達しているよう。

便利な動画配信サービス「bilibili」、この記事を読んで使ってみたいと思う方が沢山いらっしゃるかと思いますが、一部動画は配信が中国国内に限定されているようです。是非中国に来た際には、「bilibili」にて動画漬けの毎日をお過ごし下さい。

### ■ 為替の動き

(資料)ブルームバーグ



### ■ 株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



### ■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/2	財新・製造業PMI	12月	51.6	51.5	51.8
1/9	CPI(前年比)	12月	4.7%	4.5%	4.5%
1/9	PPI(前年比)	12月	-0.4%	-0.5%	-1.4%
1/14	貿易収支	12月	\$45.70b	\$46.79b	\$37.62b
1/17	鉱工業生産(前年比)	12月	5.9%	6.9%	6.2%
1/17	小売売上高(前年比)	12月	7.9%	8.0%	8.0%
1/17	GDP(前年比)	4Q	6.0%	6.0%	6.0%
1/20	LPR(1年物)	1月	4.10%	4.15%	4.15%
1/20	LPR(5年物)	1月	4.80%	4.80%	4.80%

(資料)ブルームバーグ

## シンガポールドル相場

予想レンジ: USD/SGD 1.3550 ~ 1.3800  
SGD/JPY 78.50 ~ 80.00

アジア・オセアニア資金部 成田 隼基

### ■ 先月の為替相場

2020年1月のシンガポールドル(SGD)相場は、SGD安が進行。

USD/SGDは1.34台前半の水準でオープン。2日に発表された10～12月期GDP速報値は前年比+0.8%と市場予想通りの結果となり、相場への影響は限定的であった。翌3日、米国がイラクにおける空爆でイラン革命防衛隊の司令官を殺害したとの報道が伝わる中、中東情勢の緊迫化とともに市場はリスクオフの動きへ。SGDは軟調推移となり、USD/SGDは1.35台まで上昇。その後、イランによる米国への報復措置が行われる等中東情勢への注目が集まったが、9日以降徐々に状況が改善。USD/SGDは1.35台前半の水準を維持し推移した。

11日以降は米中通商協議につき第一弾の通商合意署名を15日に控える中、リスクオンムードに。韓国ウォン主導で新興国通貨が堅調となる中、USD/SGDは再び1.34台半ばまで下落となった。

その後、実際に第一段階通商合意の署名が実施された。市場は一旦これを好感して受け止めるも、内容に関税などの多くの懸念が積み残しとなったことによりリスクオンムードは抑制され、USD/SGDは引き続き1.34台でのレンジ内推移となった。17日にはシンガポールの12月非石油輸出統計の発表があり、これは市場予想の前年比▲2.0%を大幅に上回り、同+2.4%と強い結果が示された。USD/SGDは小幅に下落し、引き続き1.34台前半の水準を維持した。

しかし21日以降、新型コロナウイルスによる肺炎拡大を背景にSGDは売られる軟調推移に。USD/SGDは上昇し、24日以降は1.35台で推移。その後も、コロナウイルス関連報道に改善の兆しが見えない中でSGDは軟調推移となり、本欄執筆を行っている30日時点で、USD/SGDは1.36台前半まで上昇している。

### ■ 今月の見通し

2020年2月のシンガポールドル(SGD)相場は、SGDの軟調推移を予想。

1月は米中通商協議のフェーズ1合意、及び堅調なシンガポール経済指標の結果が示される等、SGDが堅調推移となる得る要因が数多く見受けられた。しかし月後半に掛けて発生した新型コロナウイルスの関連報道を受けて、市場のリスクセンチメントが著しく悪化。ASEAN外為市場では米ドルが上昇し、特にSGDやマレーシア・リンギットの下げが目立つ展開となった。また、株式指数(MSCIエマージングマーケットインデックス)も20日以降の一週間で約3%下落と、昨年7月以来の下げ幅を記録しており、ASEAN諸国の通貨は脆弱な状態にある。

足元はまず、新型コロナウイルスの状況、拡大による経済への影響を精査に見極める必要があり、方向感としては、全世界的なリスクオフムードの高まり、及び対中輸出依存度が高いシンガポール(GDP比:8%)に掛かる経済への悪影響が見込まれることから、SGDは軟調推移となろう。1月に続き、SGDは軟調推移となる展開を予想する。

シンガポール経済は1月のデータが示すように、2019年の悪化から一転して底打ち感が見られた。米中通商協議がフェーズ2へと移行する中、更なる改善が期待される状況にあったが、今回の新型肺炎拡大が中国経済及びシンガポール経済へ与える影響が懸念される。今後も各種経済指標が示す兆候を逃さず確認していきたい。

### ■ 今月のつづやき(現地からの声)

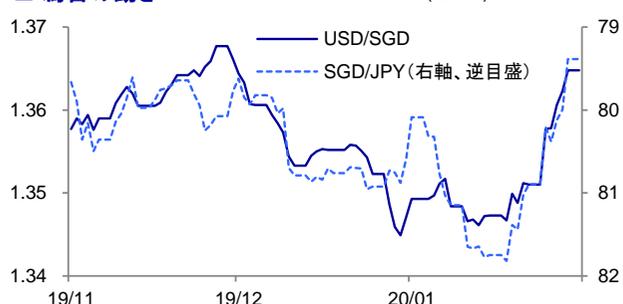
『当地で人気の動画配信サービスやTV番組』

シンガポールでは地上波放送でチャンネルが7つあるようなのですが、英語(3)、中国語(2)、タミル語(1)マレー語(1)の4言語でコンテンツが用意されています。当地の祝日について調べた際、多様な宗教に関連する祝日が設定されており多国籍国家であることを実感しましたが、その事情はTV番組にもしっかり反映されていません。ただ、当地のスタッフに聞いても、チャンネル数をしっかり把握していない人がいるくらいテレビ離れが進んでいる(話せない言語のチャンネルもあるため興味がないだけかもしれませんが)ようで、日本と同様オンデマンドコンテンツへの関心が高まってきているとのこと。もともとはシンガポール発のToggleというサービスが主流だったようですが、最近はこちらも日本と同じく、Netflix等の海外サービスに人気シフトしてきているようです。Netflixでは日本のコンテンツも充実しており、配信が遅れるのには多少不自由も感じますが、日本と同じように動画を楽しめるのは非常にありがたいです。ジブリアニメの配信開始という話題もありましたが、今までほとんど見たことがなかったので、これを機にトライしてみようかと考えているところです。

(アジア・オセアニア資金部 吉田 朋哉)

### ■ 為替の動き

(資料)ブルームバーク



### ■ 株価指数の動き

(資料)ブルームバーク



### ■ 先月の注目イベント

(資料)ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/2	GDP(前年比)	4Q	0.8%	0.8%	0.7%
1/3	購買部景気指数	12月	49.9	50.1	49.8
1/10	小売売上高(前年比)	11月	-4.1%	-4.0%	-4.4%
1/17	非石油地場輸出(前年比)	12月	-1.0%	2.4%	-2.4%
1/23	CPI(前年比)	12月	0.7%	0.8%	0.6%
1/24	鉱工業生産(前年比)	12月	-0.6%	-0.7%	-8.9%

## タイバーツ相場

予想レンジ: USD/THB 30.50 ~ 32.00  
THB/JPY 3.40 ~ 3.60

バンコック資金室 橋 雄史

### ■ 先月の為替相場

1月のドルバーツは大きく上昇した。月初2日は、年末に大きく下落していた反動が入り、30.10台半ばでオープン。年明け数日間は静かな値動きが続くも、7日にはイランがイラクの米軍施設に攻撃したとの報道にTHBは売りで反応し、一時30.30まで上昇。8日はタイ中銀のウイラタイ総裁が今後数か月かけて更に資本流出規制の緩和を進めていくと発言し、ドルバーツは上昇基調を継続。しかし9日には中東情勢緊迫化懸念からドルが買い進められ、バーツも買い戻された。10日はタイ12月消費者信頼感指数が10か月連続で前月を下回る結果となったが、相場への影響は限定的となった。

月中13日、前週から続くドル売りの流れに一時30.10半ばへ下落するも、急ピッチで進んだバーツ高の反動から直ぐに30.20前半へ水準を戻した。14日朝方には、米国の為替報告書で中国が為替操作国指定国から解除されたことが好感され、中国元や韓国ウォン等アジア通貨が対ドルで上昇する動きにバーツ売りが強まり、一時30.30前半へ上昇。その後、20日までは小動きの展開が続くが、21日に中国で発症が確認された新型コロナウイルスの感染拡大が懸念され、株式市場は全面安の展開。アジア通貨全般にも売りが入り、人民元安が一段と進む中でタイバーツも売り優勢となり、30.40近辺まで上昇した。

月後半22日は、コロナウイルスの過度な悲観視は後退するも、23日以降は感染者の拡大報道がマーケットのセンチメントを悪化させ、ドルバーツは節目の30.50をブレイク。その後もドルバーツの上昇は止まることなく、人民元安に連れる形で29日には大台の31.00に乗せる展開を見せた。30日にかけてもバーツ安の流れは止まらず、心理的節目となる31.00もブレイクし、一時31.30手前まで上昇した。

### ■ 今月の見通し

2月はバーツ安地合い継続の展開を予想する。1月のバーツ相場は、上旬までは米中通商協議第1弾合意というポジティブなトピックが好感され、リスクオンムードが強まっていたが、月後半に入ると、中国で発祥した新型コロナウイルスの感染懸念が強まり、一転してリスクオフムードとなった。ドルバーツ相場は、2019年の年末に30.00を割り込み、一定の達成感が感じられる状況下、テクニカル的に日足の一目均衡表が明確に雲を上抜け、200日移動平均線(30.72)もブレイクしたことから、ドルバーツはブルモードに突入している。2019年はリスクオンでもリスクオフでもバーツが買い進められる展開を見せていたが、新型コロナウイルスの報道が見られてからは、中国と地理的に近い特徴、そして中国人観光客が多くタイへの感染懸念が強く意識されていることから、人民元相場と上海株式市場との相関性が高まりやすく、人民元安に追随する形でバーツ安が進行している。

今回のコロナウイルスの感染拡大は、2003年に流行したSARSよりも早いペースで進んでおり、中国の経済的な影響力は当時よりも遥かに大きいことから、当時よりもグローバル経済への悪影響が心配されるところで、タイ経済の先行きについても悲観的ムードが情勢されやすくなっている。2003年当時、SARSの感染が収束するには凡そ半年の期間を要しており、今回のコロナウイルス感染が収束するには同期間もしくはそれ以上の期間が必要になることが見込まれる。

ドルバーツの上値余地がどこまであるのか気になるところであるが、テクニカルチャートを参考にするのであれば、2018年7月の高値33.50近辺から、2019年年末につけた安値29.75から38.2%戻しとなる31.20、半値戻しの31.63という水準が上値目処として意識されるところである。2019年度のバーツ相場は、アジア通貨の中でも都を抜いて上昇しており、対ドルで8.5%の上昇を見せていることから、反発期待は高い。過去のヒストリカルデータ的には、バーツ相場は1-3月にかけてバーツ高が進みやすい特徴があるものの、反発期待やコロナウイルス収束に至るまでの不透明感が引続き残る状況下、1月後半からのバーツ地合いは2月も継続するものと考えられる。

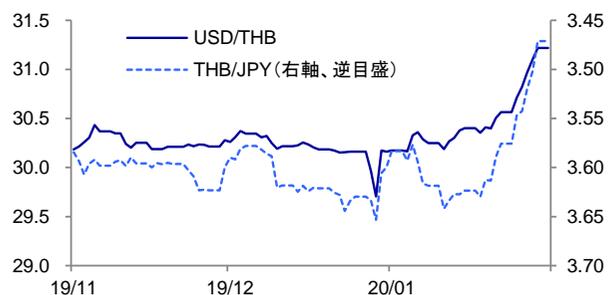
### ■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地で人気の動画配信サービスやTV番組』

タイで人気のある動画配信サービスはNetflixが挙げられると思いますが、動画視聴という面では、youtubeが一番定番かと思います。TV番組については、チャンネル毎に特徴があり、タイの場合は局を跨いで俳優が出演できないこともあり、好きな俳優がいた場合には、同じ局の番組やドラマを見るが多くなります。また、チャンネルによっても、比較的富裕層を対象にしたチャンネルと一般庶民を対象にしたチャンネルと分かれていることから、所属組織によって、話題になる番組というのが分かる傾向にあるかも知れません。駐在員で家族と帯同している方の大半はケーブルテレビを契約している人も多く、基本的には日本のテレビ番組を見ている方も多いと思いますが、日本との時差が2時間ありますので、Liveで番組を見る時は少し違和感を感じるどころであります。

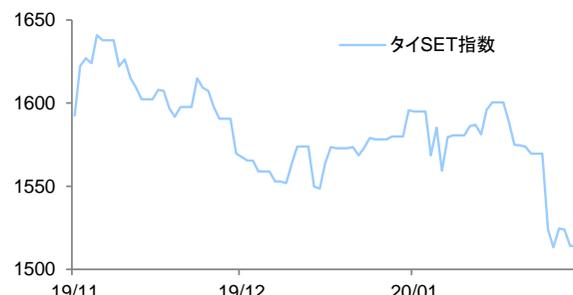
### ■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



### ■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



### ■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/2	消費者物価指数(前年比)	12月	0.7%	0.9%	0.2%
1/2	CPIコア(前年比)	12月	0.5%	0.5%	0.5%
1/2	消費者景気信頼感指数	12月	-	45.1	47.4
1/22	輸出(通関ベース、前年比)	12月	-1.3%	-1.3%	-7.4%
1/22	輸入(通関ベース、前年比)	12月	2.0%	2.5%	-14.8%
1/23	自動車販売台数	12月	-	89,285	79,299

## マレーシアリング相場

予想レンジ: USD/MYR 4.0300 ~ 4.1200  
 MYR/JPY 26.18 ~ 27.32  
 JPY/MYR 3.6600 ~ 3.8200

マレーシアみずほ銀行 関上 伸一

### ■ 先月の為替相場

新年1月のUSD/MYRは、米国イランの緊張から一時上昇も、米中フェーズ1通商合意等のMYR支援材料から2年半ぶりの安値となる4.0520を示現した。

月初は年末の流れを継いで、米中フェーズ1通商合意への期待感からMYR高バイアスでオープン。米国によるイラン司令官殺害に起因する緊張の高まりから安全資産買いが殺到し、8日に一時4.11台を回復。しかし両国が夫々矛を収めるニュアンスの報道が流れるとリスク資産への巻き戻しが起こる展開となり、USD/MYRは10日に4.07台迄下落。

中旬は、15日に米中両国によってフェーズ1通商合意の署名がなされると、1990年以降での最低水準(+6.1%)となった19年度中国GDP成長率や、マハティール首相によるカシミール人権問題での批判に端を発するインドのパーム油輸入禁止報道といったMYRへの悪材料を割り引いた格好となり、USD/MYRもMYR高に進展。17日に昨年3月の安値を更新し、2018年7月以来となる4.0520の出合いを付けた。

下旬にかけては、コロナウィルスの脅威と意表を突いたマレーシア中銀の利下げから、USD/MYRは安値から反発。ウィルスの拡散懸念が世界経済の需要減速懸念を想起させる中、リビア反政府勢力によるパイプライン封鎖で主要油田2つが操業停止に追い込まれたことから一旦上昇していた原油価格も下げに転じた事も相俟って、4.06台に上昇。

加えて22日には、マレーシア中銀が翌日物政策金利(OPR)を▲25bp引下げ2.75%に設定。事前調査では14社中で利下げ予想は1社のみというサブライズ利下げで、太宗は2月中旬に発表される19年度GDP確定後の3月以降にしか利下げは無いという見方だった。一方で同日発表の12月CPIは事前予想通りの+1.0%/y、年間では+0.7%/yと中銀予測の下限での着地。月末はコロナウィルス発のリスクオフも相俟って、USD/MYRは一時4.09迄延伸。1/30時点で4.08近傍の推移となっている。

### ■ 今月の見通し

2月のUSD/MYRは4.03から4.12のレンジでの展開を予想。中銀の予想外の1月利下げを受けて、2/12発表予定の19年Q4並びに年間GDP成長率が政府予想(+4.7%/y)比弱目となるとの観測がMYRの上値を抑える要因となり得る一方で、米中フェーズ1合意の成立と、海外投資家による馬国債投資の回帰基調は支援材料。

上記の通り、1/22の政策金利引下げは市場参加者の太宗も虚を突かれた格好。中銀は「予防的行動」と説明しているが、同日に発表された年間CPIは昨年10月の政府予算案発表時の予測値を0.2ポイント下回る+0.7%/yに止まったことも踏まえ、成長促進を狙った行動と見られる。

先月も当欄で触れたが、19年のGDP成長率は海外からの直接投資(FDI)が活性化しない限り4%後半を維持していくことは困難と予想され、財務大臣は19年GDP成長率が計画(+4.7%/y)に達しない場合に20年成長率計画(+4.8%/y)を見直す可能性も示唆している。GDP成長率は19年7~9月期迄の累計で+4.6%/y、7~9月単期(+4.4%/y)から10~12月単期が+4.8%/yを超える水準まで回復して初めて年間成長率が政府予測に届く計算である一方、直投の実弾フローは未だ本格化しているとは言えない情勢で、下方着地の可能性は高まったと言える。

一方で海外投資家の資本フローは、3月にFTSEラッセルの構成銘柄見直しに再度訪れるが、11月、12月とも馬国債市場に各MYR8bln相当の純流入で、債券利回りも低下。構成銘柄除外の蓋然性は然程高くないとの市場参加者の見方が反映されている。一方で株式市場は依然低調で、KL総合指数は一昨年の総選挙時点より依然約1割低迷しており、これらの地合も利下げの背景と見られる。

MYRの需給面は、上記に加えて、輸出の落込み幅も11月は前月比改善する中で、直接投資認可額は引続き積み上がっている状況。コロナウィルス影響は、中国の旅行収支赤字減少によるMYRと関関の高い人民元売り圧力低下と、世界需要減速の両面のシナリオが考えられ、現時点では推し量り難い。中銀も急速な相場変動は望まないと見られることから、依然緩やかなMYR高継続をメインシナリオと見たい。

### ■ 今月のつばやき(現地からの声)

『当地で人気の動画配信サービスやTV番組』

当地マレーシアは、国営含む5つの地上波放送局と衛星ケーブルテレビASTROが存在。国営放送は日本と同様に2つチャンネルを有するが、総合と教育の区分けはない。90年代前半迄はテレビの保有にライセンスフィーが存在し、これが国営放送局に還元されるフォーマットであった。日本のNHK受信料と同様に戸別訪問によるライセンスチェックがなされていたが、今は制度自体が廃止されている。勿論、衛星ケーブルは有料だ。地上波のデジタル移行も昨年完了した。

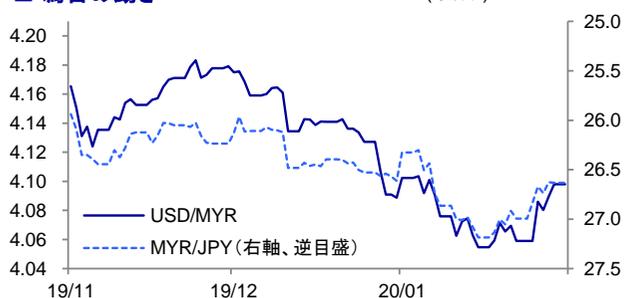
実は民放4局は、地場紙ニュー・ストレーツ・タイムズのオーナーでもある1つのメディア会社が各民族向けに運営。その株主も18年の政権交代を機に旧与党から現与党寄りへ変わった。総選挙前には前首相の夫人との仲睦まじい姿が旧与党のCMで流れていたが、今彼の姿を見るのは主に政府系投資ファンドIMDBの汚職裁判報道だ。

と、前置きが長くなったが、人気の番組はなぜか心靈現象的な物が多く、「Ghost2008」という番組が代表格。ドラマは傾向として香港からの輸入が多く、当地の華人が広東省系でなくとも広東語を理解できる一因と言われている。

そんな中、足元勢力拡大中なのが動画サービスのNetflix。これに対抗するのがマレーシアテレコムが運営する地場のIflixだ。チャンネルの豊富さで地上波よりも主流と見られたAstroも、今や動画配信サービスの躍進に押されている。

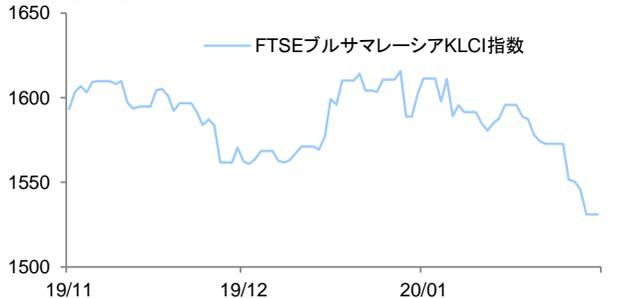
### ■ 為替の動き

(資料) ブルームバーグ



### ■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーグ



### ■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/3	Trade Balance (MYR)	Nov	13.0B	6.5B	17.3B
1/3	Exports	Nov	-7.1%	-5.5%	-6.7%
1/3	Imports	Nov	-6.9%	-3.6%	-8.7%
1/8	Foreign Reserves	31-Dec	-	103.6B	103.3B
1/10	Industrial Output y/y	Nov	1.1%	2.0%	0.3%
1/22	CPI y/y	Nov	1.2%	1.0%	0.9%
1/22	Foreign Reserves	15-Jan	-	103.7B	103.6B
1/22	Overnight Policy Rate	22-Jan	3.00%	2.75%	3.00%

## インドネシアルピア相場

予想レンジ:

USD/IDR 13500 ~ 13900  
 IDR/JPY 0.77 ~ 0.81  
 JPY/IDR 123.46 ~ 129.87

(注)100インドネシアルピアあたりの対円レート

アジア・オセアニア資金部 田才 雄

### ■ 先月の為替相場

1月のドルルピアは、昨年12月に続き堅調推移。ドルルピアの高値13900台から一時は13600割れまでルピア高が進行した。

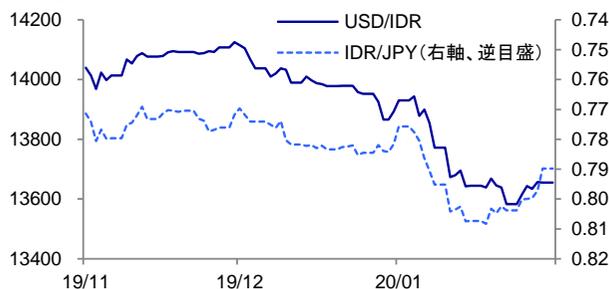
ドルルピアは月初2日、13800台後半でスタート。年始で市場参加者が限られる中、ドルルピアは小動き。同日発表されたインドネシア12月消費者物価は前年同月比2.72%の伸びで昨年3月以来の低水準となった。翌3日には米イランの緊張感が高まり、中東情勢が悪化。米国のイラン革命防衛隊部隊への空爆によりソレイマニ司令官を殺害したことで、イランによる報復への懸念が広がった。原油価格の上昇を横目に、ドルルピアは翌週6日にかけて13965近辺までルピア安が進行した。だが、その後はリスク回避姿勢が一服する中、8日にイランが戦争は求めていないと表明し、トランプ米大統領も軍事力行使したくないと声明を発表。事態が収束に向かう中、9日のドルルピアは13800台半ばまでルピア高が進行。投資家にリスク選好姿勢が戻ったことでインドネシア国債への資金流入が進み、10日には13800を割りこみ13700台半ばまでルピアは急伸した。

月中旬もルピアは堅調を維持。米中第一段階貿易協定への署名を控える中、期待感から投資家のリスク選好姿勢が継続する中、米国の13日に発表した外国為替報告書で中国を為替操作国認定解除したこともあり、インドネシアへの資金流入が継続。ドルルピアは13700を割りこみ、13600台後半までルピア高が進行した。その後は13600台後半を中心とした推移が続くルピアは堅調さを維持。15日に発表されたインドネシア12月貿易収支は赤字ではあったものの市場予想比小幅な赤字に留まり、輸出が前年同期比でプラスに転じたこともルピアをサポートした。16日にジョコ大統領が急激なルピア高は輸出業者を圧迫することへの懸念を示すも、ルピアは安定を維持した。

月下旬、23日のインドネシア中銀金融政策決定会合では一部には利下げを期待する向きもあったが、市場の大方の見方通り、現状維持となった。これを受けて翌24日インドネシアへの資金流入が活発化し遂に13600割れを示現。月高値水準となる13500台後半までルピア高が進んだ。その後はコロナウイルス感染拡大への懸念と月末のドル決済に向けたルピア売りから値を戻し、13600台半ばで推移している。(30日現在)

### ■ 為替の動き

(資料)ブルームバーグ



### ■ 株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



### ■ 先月の注目イベント

(資料)ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/2	CPI(前年同月比)	12月	2.9%	2.7%	3.0%
1/8	外貨準備高(USD B)	12月	-	129.2	126.6
1/15	貿易収支(USD M)	12月	-422	-28	-1,393
1/15	輸出(前年比)	12月	-1.9%	1.3%	-6.1%
1/23	BI 7daysリバースレポ金利	-	5.00%	5.00%	5.00%

### ■ 今月の見通し

2月のドルルピアは底堅い推移(ルピアは上値重い推移)を予想する。

先月発表されたインドネシアの昨年12月貿易収支は11月に引き続き赤字となった。18年10月以来に、輸出が前年同月比でプラスを記録したことは、今後の貿易収支を見通す上で明るい兆しと言えなくはないが、貿易赤字であり、經常赤字を和らげるには程遠い状況。足元のルピア高を鑑みれば、先月の為替相場欄にて既述の通り、ジョコ大統領から輸出業者への悪影響を懸念する発言が飛び出したことにも表れている通り、貿易収支改善への道りは引き続き厳しい。經常収支の赤字縮小は容易では無いことを鑑みれば、潜在的なルピア安圧力が続く。

一方で外国人投資家によるインドネシア国債への資金流入は1月も旺盛であった。今年1月月初から24日までのインドネシア国債の海外投資家保有額の伸びは30兆ルピアを超えた。昨年1年間で、外国人投資家によるインドネシア国債保有額は170兆ルピア近い伸びを見せルピアの安定に寄与したが、この一年間の保有額の伸びと、比較すれば如何に短期間で多くの資金流入があったかが分かる。結果的にルピアが堅調推移したわけだが、この旺盛な資金流入の背景には、中東情勢悪化の回避と、米中貿易協議の進展が背景であった。しかし、足許はコロナウイルス感染拡大という、投資家心理を悪化させる材料が台頭。今のところ感染は拡大傾向にあり、早期収束の可能性は低くなりつつある。先月の旺盛な資金流入の反動にも注意すべきで、ルピアの買値圧力は弱くなる可能性が高そうだ。

上記資金流入もあり長期金利は低下、インフレ率も低下傾向、ルピア高地合とインドネシア中銀による政策金利下げへの材料は揃いつつある。1月の政策決定会合後に状況次第では更なる緩和的政策をとる可能性を示唆しており、早ければ今月にも追加利下げに動く可能性がある。

以上から2月のドルルピアは、ルピアの上値重い推移を予想する。

### ■ 今月のつぶやき(現地からの声)

「当地で人気の動画配信サービスやTV番組」

2014年に大手メディアのEmtekがVidio(www.vidio.com)という動画配信サービスを開始した。当初は、インドネシア向けの立ち上げを目標として掲げられた。サービス開始した当時は、Youtubeのようにユーザー作成コンテンツの他に、同じグループのテレビ会社が放送後のテレビコンテンツを配信するサイトとして機能した。現在は、無料コンテンツの他に、月々IDR49,000(約400円)を支払うと、様々な有料コンテンツを楽しめます。有料コンテンツは主に映画、テレビドラマ、スポーツ、などがある。映画のコンテンツはインドネシア映画や洋画の他に、インド、タイ、韓国の映画もある。また、スポーツコンテンツも色々、インドネシアで人気のサッカーの国内と海外リーグ、全米プロバスケのNBAリーグが配信されている。

(インドネシアみずほ銀行 資金為替課 アストリド)

## フィリピンペソ相場

予想レンジ: USD/PHP 50.20 ~ 52.00  
 PHP/JPY 2.10 ~ 2.17

アジア・オセアニア資金部 マニラ室 樋上 陽一

### ■ 先月の為替相場

2020年の初取引(2日)は1米ドル=50.60ペソで出合った。中東情勢に緊張感が拡がり、市場はリスクオフの動きでドルペソ為替相場は1米ドル=51ペソ台へ上昇(3日の週終値は1米ドル=51.09ペソ)。週明け6日には一時1米ドル=51.32ペソで取引される場面も。しかしながら次第に軍事衝突は回避されるとの楽観論が勝り、1米ドル=50ペソ後半での取引に。

8日にイランが在イラク米軍基地の攻撃を行った、との報道で再びドルが買われたが、1米ドル=51.25ペソまで。6日のドル高値更新には至らず。結局、緊張緩和期待でアジア通貨は買い戻され、ドルペソ為替相場は1米ドル=50.66ペソで週(10日)の取引を終えた。

タール火山噴火の影響で13日(月)のフィリピン金融市場はクローズ。14日のドルペソ為替相場は、前週終値(1米ドル=50.66ペソ)から大幅なペソ高の1米ドル=50.40ペソで取引開始となった。火山噴火のネガティブ影響はなく、①中東情勢緊迫化の懸念が後退したこと、②10日に発表された米12月雇用統計で米国の雇用市場が堅調であることが確認されたこと、③米国が替報告書にて中国の為替操作国認定を解除したこと、④米中通商協議フェーズ1合意署名を前に投資家心理が改善したことがペソ高の背景にあった。14日の取引開始後、1米ドル=50.37ペソで取引され、2019年の対ドルでのペソ高値(1米ドル=50.40ペソ)を更新(1月のペソ高値に)。

ただ、ペソの上値も限定的となる。米財務長官が米中フェーズ1合意段階での対中関税解除を否定したこと、11月海外在留フィリピン人労働者送金が前年同月比2%増の23.7億ドルで市場予想(4.6%増、24.4億ドル)に届かなかったこと、中国の武漢市で発生した新型コロナウイルスの感染拡大リスクが意識されたことから、月末に掛けてはドル買いペソ売りが優勢となり、1米ドル=51ペソ丁度レベルで取引されている(30日19時現在)。

### ■ 今月の見通し

先月のタール火山噴火後のフィリピン金融市場は落ちついてきた。ペソが大幅に売られることもなく、ペソ金利の高騰もみられていない。フィリピン株式指数も噴火後一週間(14~17日)は7700ポイント台で推移していた。

外国人投資家のフィリピン株売買動向は売り越したが、これは19年5月から続くトレンド。売り越し額の水準に著変はみられなかった。警戒レベルが4から3に引き下げられ、一旦火山リスクは市場では消化されたとの整理(引き続きリスク要因として留意が必要なのは言うまでもないが)。

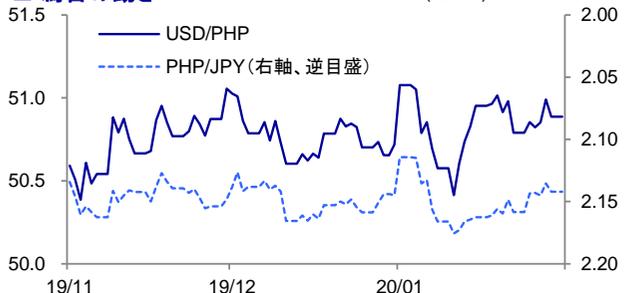
23日に発表されたフィリピン2019年10~12月期GDPは前年比6.4%と7~9月期の同6%から加速したが、通年では同5.9%と2011年以来の低水準となった。

フィリピン中銀総裁からは金融緩和の余地がある、とのコメントが聞かれた。ただし金融緩和をする、というよりは、景気を支えるための手段がある、とのメッセージ色が強いとの解釈。

中銀の20年、21年のインフレ見通しが2.9%でインフレターゲット(2~4%)の中心値であること、火山噴火の影響で食品価格が高騰するとの見方もあり、容易に利下げ判断にならないと予想する。フィリピン中銀の金融政策委員会は6日予定されており、個人的にはペソの政策金利は据置きと予想している。

足元の市場参加者の最大のテーマは新型コロナウイルス。30日の報道ではフィリピンで初の陽性患者が認められた。武漢からの中国人で今後の感染拡大リスクが一気に高まっている。ドルペソ為替相場はここ数週間、ペソの底固い展開がみられ、1米ドル=51ペソ台に上昇しても滞空時間が短かったが、市場はリスクオフ地合、大きくペソ売りに傾いても驚きは無い。

### ■ 為替の動き



### ■ 株価指数の動き



### ■ 先月の注目イベント

発表日 イベント  
 上記参照

(資料)ブルームバーク

期間	予想	結果	前回
----	----	----	----

## インドルピー相場

予想レンジ: USD/INR 69.50 ~ 73.00  
INR/JPY 1.48 ~ 1.56

アジア・オセアニア資金部 インド室 田川 順也

### ■ 先月の為替相場

【1月の米ドル/インドルピーは方向感の出ない展開だった】

71.36で年初取引を開始。3日にアメリカがイラン司令官をイラクで殺害したとのヘッドラインに72まで一気に急進。リスク回避のルピー売りが出たほか、中東情勢悪化を懸念し、原油価格が上昇。原油輸入量が多いインドは貿易収支悪化⇒経常収支悪化というシナリオが連想され、他のアジア新興国通貨よりも売られやすい展開。8日にはブレントが71.75ドル(WTIでは65.65)まで上昇し、同タイミングでドル/ルピーは当月高値となる72.13まで上昇。ただし、72を超える場面ではインド中央銀行からドル売り/ルピー買いの為替介入がしっかりと入り、頭を抑えられる展開。

ただし、その後はイランが戦争は求めている、との報道や、イランが報復してこない限り再攻撃はしない、とのトランプ大統領のスタンスが確認されるとリスクセンチメント悪化が一服。9日にはドル/ルピーはイラン攻撃前の水準を回復。2週目末の引け後に発表された米非農業部門雇用者数が事前予想を下回ることとなり、併せてインドでは消費者物価指数が2014年7月以来となる高水準に利下げ期待が一段と後退。ドル/ルピーは下値を探る展開に、14日には当月安値となる70.70を示現。

月後半にかけては新型コロナウイルスのヘッドラインが席巻、リスク回避の動きが再び強まりドル/ルピーは71台半ばまで上昇するも、一段の高値追いつきはならず、30日執筆時点では71.48レベルでの推移となっており、1月は上下に振れたものの結局方向感は見いだせず、月初と同レベルで月末を迎える。

【1月のインドルピー/日本円は方向感の出ない展開だった】

1.522で2020年のオープンを迎えたルピー/円はイラン攻撃を背景に109円台で推移していたドル/円が107円半ばまで円高が進行すると昨年9月以来となる1.495レベルまで下落。その後もイランが報復を検討との報道や、イラク米軍基地をイランが攻撃したとの発表に振られたが、上述のように収束方向に向かい始め、マーケット参加者の関心は米中通商交渉関連に戻る。

このような中、ドル/人民元は昨年8月の急伸前の水準まで元高方向に調整。また米国が中国の「為替操作国認定」を解除する流れにドル/円が110円台まで浮上。これに呼応し、ルピー/円は14日には当月高値となる1.522まで上伸。その後はドル/円こそ高値圏で値持ちしたが、上述のようにドル/ルピーのルピー安に連れられ、ルピー/円は再び下落。30日執筆時点で1.523レベルで推移しており、こちらもルピー/円と同じく方向感のつかない展開だった。

### ■ 今月の見通し

【2月のドル/ルピーは方向感の出づらいつ展開を想定】

現状話題になっている新型コロナウイルスについては、1月半ば以降株式・債券・為替の各マーケットに影響を与えたが、月末にかけて27日には米商務省が警戒レベルの引き上げ、29日は世界保健機関が緊急会合の招集を発表などのニュースが出たものの特段大きな反応は見られなかった。今後も注意が必要なトピックではあるが、とく金融市場への影響という観点ではパニック的な状況とはなっていない。

他国の話題に目を向けると欧米日三国の会合は無難に通過し、いずれも次回は3月。イギリスの欧州離脱問題は1月29日に離脱協定批准書に署名。米中通商交渉については今後も議論が続くことが想定されるも一次合意文書に署名。ということでは一旦“一山超えた”感はある。

インドについて言えば、まずは2/1の予算発表である。来年度分であるため、政治的観点から歳出拡大路線の内容になることが基本想定であり、景気拡大やそれにともなった外国人投資家のインド株買いが想起され、ルピー高要因となりそうである。一方で、昨年よりドル/ルピーの70台半ばはインド中央銀行によるドル買い/ルピー売り介入のポイントとなっており、これが続く限り大きくはルピー高が望めない。次点で2/6のインド中銀政策会合である。基本的には据え置き予想で構えておきたいが、今後の利下げ有無を占うという観点で、物価見通しと昨年度実施済みの計1.35%の利下げが与える実体経済への効果について中銀がどう分析しているのかを注視したい。

### ■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地で人気の動画配信サービスやTV番組』

リアリティー番組の先駆けは一説によると、70年代アメリカで始まったといわれているようですが、インドでも2006年から約13年間にわたり放送されている大人気リアリティー番組が存在します。その名もBig Boss。

予選を勝ち抜いたエンタメ業界の卵たちがインド各地から将来の成功と高額の賞金を夢見て生き残りをかけ、一つ屋根の下に住み、ハリウッドスター扮するBossの指令に挑み優勝を狙います。老若男女問わず、この番組を知らない人はいないといってもいいほど、インド人を虜にしているようです。

24時間カメラの回る環境に置かれた彼らが自己主張のぶつけ合いを延々と繰り返す姿に何故視聴者が釘付けになるのか、私としては7つでは収まらないインド不思議事象の一つです。(インド営業部バンガロール 長谷川かんな)

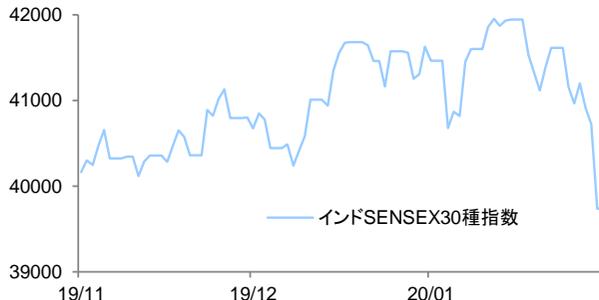
### ■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



### ■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



### ■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/2	製造業PMI	12月	-	51.2	50.6
1/10	鉱工業生産	11月	-5.0%	-3.8%	-4.3%
1/13	CPI	12月	6.7%	7.4%	5.5%
1/14	貿易収支	12月	-116億ドル	-113億ドル	-121億ドル

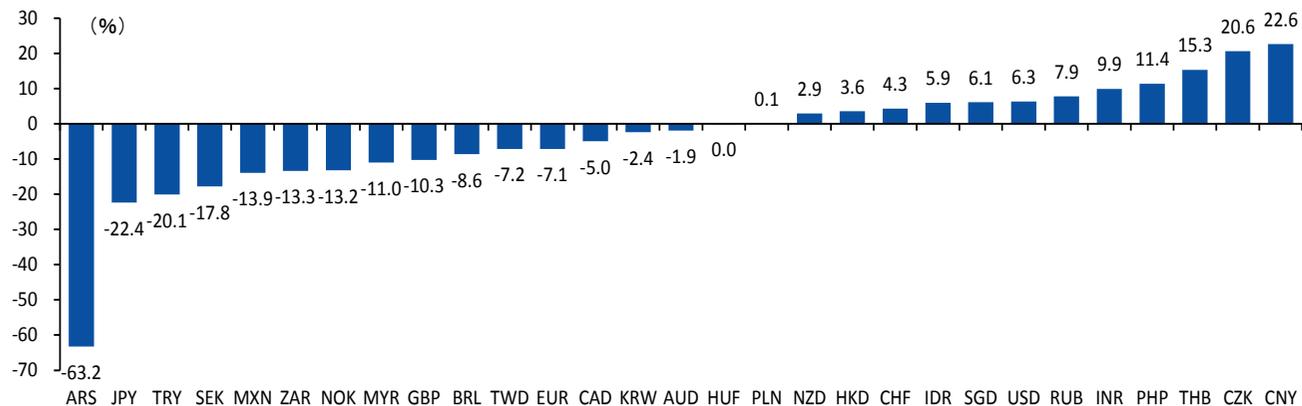
(資料) ブルームバーク

■ 為替市場・株式市場騰落率

為替市場		2019年末	2020年1月末	騰落率	株式市場		2019年末	2020年1月末	騰落率	USD換算
<b>先進国</b>										
米国	-	-	-	-	NYダウ平均	28538.44	28256.03	-1.0%	-	
日本	USD/JPY	108.61	108.35	-0.2%	日経平均株価	23656.62	23205.18	-1.9%	-1.7%	
ユーロ圏	EUR/USD	1.1213	1.1093	-1.1%	ドイツDAX指数	13249.01	12981.97	-2.0%	-2.0%	
英国	GBP/USD	1.3257	1.3206	-0.4%	ロンドンFTSE 100指数	7542.44	7286.01	-3.4%	-3.0%	
豪州	AUD/USD	0.7021	0.6692	-4.7%	S&P/ASX200指数	6684.075	7017.222	5.0%	10.1%	
カナダ	USD/CAD	1.299	1.3237	1.9%	S&PTロント総合指数	17063.43	17318.49	1.5%	-0.4%	
<b>エマーゼンジア</b>										
中国	USD/CNY	6.9632	6.9109	-0.8%	上海総合	3050.124	2976.528	-2.4%	-1.7%	
香港	USD/HKD	7.7914	7.7643	-0.3%	香港ハンセン	28189.75	26312.63	-6.7%	-6.3%	
インド	USD/INR	71.38	71.355	0.0%	インドSENSEX30種	41253.74	40723.49	-1.3%	-1.3%	
インドネシア	USD/IDR	13866	13655	-1.5%	ジャカルタ総合	6299.539	5940.048	-5.7%	-4.2%	
韓国	USD/KRW	1155.84	1191.74	3.1%	韓国総合株価	2197.67	2119.01	-3.6%	-6.5%	
マレーシア	USD/MYR	4.091	4.098	0.2%	ブルサマレーシアKLCI	1588.76	1531.06	-3.6%	-3.8%	
フィリピン	USD/PHP	50.655	50.886	0.5%	フィリピン総合	7815.26	7200.79	-7.9%	-8.3%	
シンガポール	USD/SGD	1.3459	1.3648	1.4%	シンガポールST	3222.83	3153.73	-2.1%	-3.5%	
台湾	USD/TWD	29.991	30.241	0.8%	台湾加権	11997.14	11495.1	-4.2%	-5.0%	
タイ	USD/THB	29.705	31.218	5.1%	タイSET	1579.84	1514.14	-4.2%	-8.8%	

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 実質実効為替レート(REER)の1994年以降の平均からの乖離(2019年12月時点)



### ■ 実質GDP成長率

	2018Q2	2018Q3	2018Q4	2019Q1	2019Q2	2019Q3	2019Q4	2018	2019
	(前年比%、*前期比年率%)							(前年比%)	
<b>先進国</b>									
米国*	3.5	2.9	1.1	3.1	2.0	2.1	2.1	2.9	2.3
日本*	2.1	-2.4	1.0	2.6	2.0	1.8		0.3	
ユーロ圏	2.2	1.6	1.2	1.4	1.2	1.2	1.0	1.9	
英国	1.3	1.6	1.4	2.0	1.2	1.1		1.3	1.1
豪州	3.2	2.5	2.1	1.7	1.6	1.7		2.7	
カナダ*	1.6	2.5	1.0	0.8	3.5	1.3		2.0	
<b>エマージングアジア</b>									
中国	6.9	6.7	6.5	6.4	6.2	6.0	6.0	6.7	6.1
香港	3.6	2.8	1.2	0.6	0.4	-2.9		3.0	
インド	8.0	7.0	6.6	5.8	5.0	4.5		8.0	8.3
インドネシア	5.3	5.2	5.2	5.1	5.1	5.0		5.2	
韓国	2.9	2.1	2.9	1.7	2.0	2.0	2.2	2.7	2.0
マレーシア	4.5	4.4	4.7	4.5	4.9	4.4		4.7	
フィリピン	6.2	6.0	6.3	5.6	5.5	6.0	6.4	6.2	5.9
シンガポール	4.2	2.6	1.3	1.1	0.2	0.7	0.8	3.2	0.7
台湾	3.4	2.5	2.0	1.8	2.6	3.0	3.4	2.8	2.7
タイ	4.7	3.2	3.6	2.8	2.3	2.4		4.1	2.4

(注)インドの年間成長率は会計年度(4~3月)。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

### ■ 失業率

	19/05	19/06	19/07	19/08	19/09	19/10	19/11	19/12	2018	2019
	(%)								(%)	
<b>先進国</b>										
米国	3.6	3.7	3.7	3.7	3.5	3.6	3.5	3.5	3.9	3.7
日本	2.4	2.3	2.2	2.2	2.4	2.4	2.2	2.2	2.4	2.3
ユーロ圏	7.6	7.5	7.6	7.5	7.5	7.5	7.5	7.4	8.2	7.6
英国	3.8	3.9	3.8	3.9	3.8	3.8	3.8	0.0	4.1	3.8
豪州	5.2	5.3	5.2	5.3	5.2	5.3	5.2	5.1	5.3	5.2
カナダ	5.4	5.6	5.7	5.7	5.5	5.6	5.9	5.6	5.8	5.7
<b>エマージングアジア</b>										
中国		3.6			3.6				3.8	3.6
香港	2.8	2.8	2.9	2.9	2.9	3.1	3.2	3.3	2.8	2.9
インドネシア				5.3					5.2	5.2
韓国	4.0	4.0	4.0	3.1	3.4	3.5	3.6	3.8	3.8	3.8
マレーシア	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.2	3.2		3.3	3.3
フィリピン			5.4			4.5			5.3	5.1
シンガポール		2.2			2.3			2.3	2.1	2.3
台湾	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7
タイ	1.1	0.9	1.1	1.0	1.0	1.0	1.1	1.0	1.1	1.0

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

### ■ 消費者物価上昇率

	19/05	19/06	19/07	19/08	19/09	19/10	19/11	19/12	20/01	2018	2019
	(前年比%)									(前年比%)	
<b>先進国</b>											
米国	1.8	1.6	1.8	1.7	1.7	1.8	2.1	2.3		2.4	1.8
日本	0.7	0.7	0.5	0.3	0.2	0.2	0.5	0.8		1.0	0.5
ユーロ圏	1.2	1.3	1.0	1.0	0.8	0.7	1.0	1.3	1.4	1.8	1.2
英国	2.0	2.0	2.1	1.7	1.7	1.5	1.5	1.3		2.5	1.8
豪州		1.6			1.7			1.8	2.8	1.9	1.6
カナダ	2.4	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	2.2	2.2		2.3	1.9
<b>エマージングアジア</b>											
中国	2.7	2.7	2.8	2.8	3.0	3.8	4.5	4.5		2.1	2.9
香港	2.8	3.3	3.3	3.5	3.2	3.1	3.0	2.9		2.4	2.9
インド	3.1	3.2	3.2	3.3	4.0	4.6	5.5	7.4		4.0	3.7
インドネシア	3.3	3.3	3.3	3.5	3.4	3.1	3.0	2.7		3.2	3.0
韓国	0.7	0.7	0.6	0.0	-0.4	0.0	0.2	0.7		1.5	0.4
マレーシア	0.2	1.5	1.4	1.5	1.1	1.1	0.9	1.0		1.0	0.7
フィリピン	3.2	2.7	2.4	1.7	0.9	0.8	1.3	2.5		5.2	2.5
シンガポール	0.9	0.6	0.4	0.5	0.5	0.4	0.6	0.8		0.4	0.6
台湾	0.9	0.9	0.4	0.4	0.4	0.4	0.6	1.1		1.4	0.6
タイ	1.2	0.9	1.0	0.5	0.3	0.1	0.2	0.9		1.1	0.7

(注)豪州は四半期データ。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

### ■ 経常収支

	2018Q1	2018Q2	2018Q3	2018Q4	2019Q1	2019Q2	2019Q3	2018	2019
	(対GDP比%)							(対GDP比%)	
<b>先進国</b>									
米国	-2.2	-2.1	-2.2	-2.4	-2.4	-2.5		-2.4	0.0
日本	4.1	4.1	3.8	3.5	3.5	3.4	3.4	3.5	
ユーロ圏	3.2	3.6	3.3	3.1	3.0	2.7	2.9	3.1	
英国	-3.5	-3.4	-3.5	-3.9	-4.7	-4.9	-4.7	-3.9	
豪州	-2.7	-2.8	-2.6	-2.0	-1.6	-0.7	0.2	-2.0	
カナダ	-3.0	-2.9	-2.5	-2.5	-2.6	-2.2	-2.2	-2.5	
<b>エマージングアジア</b>									
中国	1.0	0.6	0.5	0.4	0.9	1.2	1.4	0.4	
香港	4.3	3.9	3.4	4.0	4.7	5.4	6.4	4.3	
インド	-1.8	-1.9	-2.3	-2.5	-2.1	-2.0	-1.5	-2.5	
インドネシア	-1.9	-2.2	-2.7	-3.0	-3.0	-3.0	-2.9	-2.9	-2.7
韓国	4.1	4.3	4.6	4.6	4.7	4.3	3.8	4.5	
マレーシア	3.7	3.2	2.6	2.3	2.4	3.1	3.6	2.3	
フィリピン	-0.6	-1.7	-2.8	-2.4	-2.7	-1.6	-1.0	-2.4	
シンガポール	16.4	17.2	17.7	17.9	18.3	17.9	17.3	17.9	18.4
台湾	14.1	13.9	12.8	11.6	11.0	10.9	11.1	11.6	
タイ	9.3	8.6	6.5	5.6	5.2	5.3	6.3	5.6	

(注)インドの年間経常収支は会計年度(4~3月)。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

## ■ 世界の政策金利

		現在 (%)	政策転換期		最近の政策変更		直近の政策動向		
			日付	水準 (%)	日付	変更幅	日付	決定事項	
<b>先進国</b>									
米国	FFレート誘導目標	1.50-1.75	緩和: 2019/7/31	2.25-2.50	2019/10/30	-25bp	2020/1/29	現状維持	
日本	無担保コール翌日物金利	0.10	緩和: 2008/10/30	0.50	2010/10/5	0-10bp	2020/1/21	現状維持	
ユーロ圏	主要リファイナンスオペ金利	0.00	緩和: 2011/11/3	1.50	2016/3/10	-5bp	2020/1/23	現状維持	
英国	バンク・レート	0.75	引き締め: 2017/11/2	0.25	2018/9/19	+25bp	2020/1/29	現状維持	
豪州	キャッシュ・レート	0.75	緩和: 2011/11/1	4.75	2019/10/1	-25bp	2019/12/3	現状維持	
カナダ	翌日物金利	1.75	引き締め: 2017/7/12	0.50	2018/10/24	+25bp	2020/1/22	現状維持	
<b>エマージングアジア</b>									
中国	1年物貸出基準金利(LPR)	4.15	緩和: 2012/6/8	6.31	2019/9/20	-5bp	2019/11/20	-5bp	
香港	基準貸出金利	0.50	緩和: 2007/9/19	6.75	2008/12/17	-100bp	2011/12/14	現状維持	
インド	翌日物レポ金利	5.15	緩和: 2019/2/7	6.50	2019/10/4	-25bp	2019/12/5	現状維持	
インドネシア	7日物リバースレポレート	5.00	緩和: 2019/7/18	6.00	2019/10/24	-25bp	2020/1/23	現状維持	
韓国	7日物レポ金利	1.25	緩和: 2019/7/18	1.75	2019/10/16	-25bp	2020/1/17	現状維持	
マレーシア	翌日物金利	2.75	緩和: 2019/5/7	3.25	2020/1/22	-25bp	2020/1/22	-25bp	
フィリピン	翌日物金利	4.00	緩和: 2019/5/9	4.75	2019/9/26	-25bp	2019/12/12	現状維持	
タイ	翌日物レポ金利	1.25	緩和: 2019/8/7	1.75	2019/11/6	-25bp	2019/12/18	現状維持	
ベトナム	リファイナンス金利	6.00	緩和: 2012/3/12	15.00	2019/9/16	-25bp	2019/9/16	-25bp	

(注) インドネシア中銀は2016年8月19日に政策金利をBIレートから7日物リバースレポレートに変更

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行